

奥多摩

町制施行70周年記念
奥多摩町勢要覧

自然の中で わたしが
くらし つながり 挑戦できる
おくたま



2025



CONTENTS

2 ごあいさつ

8 70周年記念対談 奥多摩町 師岡町長×多摩大学 松本教授

くらし、つながり、挑戦できるまちへ

— 奥多摩町のこれからを考える —

13 奥多摩町が大切にする姿勢

14 1.「豊かな自然」を大切にします

18 2.「わたし」＝「一人ひとり」を大切にします

24 3.「くらしやすさ」を大切にします

26 4.「町内外のつながり」を大切にします

30 5.「挑戦」と「学び」を大切にします

34 議会・行政

36 データで見る奥多摩町

44 観光スポット

46 奥多摩マップ

奥多摩町は、東京都のおよそ10分の1の面積に相当する225.53km²の行政面積を有し、その94%が森林で全域が秩父多摩甲斐国立公園に包含されています。



ごあいさつ

昭和30年（1955年）4月に1町2村が合併して誕生した奥多摩町（おくとままち）は、令和7年（2025年）に町制施行70周年を迎えました。

行政エリア全域が秩父多摩甲斐国立公園に包含される奥多摩町は、首都東京の奥座敷、またオアシスとして親しまれ、観光をはじめ、多くの方々が国内外から訪れていますが、古くは江戸幕府の直轄領として、また、昭和初期からは石灰石の採掘や奥多摩湖（小内ダム）の建設工事により活況を呈しましたが、第二次世界大戦（太平洋戦争）では、住民生活の面でも多くの労苦があり、様々な影響を受けました。

町には東京都の最高峰で日本百名山にも数えられる雲取山（2017m）をはじめとする峰々が連なり、東京都の10分の1に達する広大な面積（225.53km²）の94%は森林が占め、水源地から流れ出す多摩川は、町を貫流し、遠く東京湾につながっています。かつては林業が町の基幹産業として栄えましたが、木材の輸入自由化等により、昭和40年代後半には徐々に衰退していきました。このため経済林として成立することは難しい状況にありますが、近年は環境面でクローズアップされており、循環する森づくりなどの森林経営を通じて、持続可能な地域社会の実現を目指し、未来を見据えた利活用が少しずつではありますが始まっています。

今、私たちの町は4千数百名の町民が暮らし、65歳以上の人口比率は50%を超える過疎地域の自治体ですが、地域コミュニティの維持、活性化につながるよう、子育て支援や移住定住対策を始めとする様々な施策を展開しています。また、同時に奥多摩町に興味を持っていただき、何度も足を運んでいただけるよう、関係人口を増やすための施策も産官学民で連携しながら進めています。

この度、町制施行70周年記念にあたり、町民はもとより、多くの皆様に町の歴史や自然、そして町に関わる人々の魅力を知っていただくために、町勢要覧を発行いたしました。SNSをはじめとする情報過多で気忙しい時代にあって、本書を手にとっていただき、奥多摩町の魅力を改めて認識され、この町を応援していただける方々が増えること、そして将来にわたって町民が安心して暮らせるまちづくりにつながることを願ってやみません。

奥多摩町長

師岡 伸公
もろ おか のぶ まさ





WATERFALL

百尋ノ滝



奥多摩湖

LAKE



奥多摩の山々

MOUNTAIN



GIANT TREE

ガニ沢出会のカツラ

左上:稲村岩 左下:小河内の鹿島踊(国指定重要無形民俗文化財／ユネスコ無形文化遺産) 右:色づく氷川溪谷と氷川小橋



AUTUMN

左上:春山の木々 左下:川野の車人形(国指定重要無形民俗文化財) 右:桜と奥多摩湖



SPRING



WINTER



左:日原の滝 右上:雪の奥多摩湖 右下:冬の恵み



SUMMER



左:大自然のアクティビティ 右上:白丸元栖神社 獅子舞 右下:大寺山の星空

くらし、つながり、 挑戦できるまちへ

——奥多摩町のこれからを考える——

奥多摩町長
師岡 伸公

多摩大学経営情報学部教授
多摩大学総合研究所 所長
松本 祐一 教授

1955年4月1日、氷川町、古里村、小河内村の1町2村が合併して誕生した奥多摩町。
70周年を迎える2025年4月からは、第6期長期総合計画が始まります。迫り来るキックオフを前に、師岡伸公町長と多摩大学の松本祐一教授が、まちづくりについて語り合いました。

場所協力：AUBA

”

みんなで作る奥多摩の未来

“

大学とコラボし、
活性化を推進

町長 私は、地域の人のつながりや町外の人との交流が、奥多摩町のまちづくりの大きな力になってくれていると感じています。松本先生もおひとりで、私たち行政との関わりは、第5期長期総合計画の中間報告（2019年度）から始まり、町内各所での活動はそれ以前から10年近くにわたってお力をお貸しいただいているわけ

ですが、先生と奥多摩町の縁を最初に結んでくれたのは、NPO法人奥多摩力ヌーセンターの宮本さんとお聞きしています。

松本 あるシンポジウムでお会いして、「奥多摩町は若い人が減っている、できれば若い人の力を借りたい」とご相談いただきました。当時私はゼミを立ち上げたばかりだったので、地域振興について学んでいる学生たちと一緒に奥多摩町で何かできたらと思い、特産の治助イモを普及させる取り組みの一環としての、植え付けや収穫のお手伝い、メニューを考えて学園祭で販売するといった活動から始めました。

町長 ゼミの学生さんたちには、我々行政では思いもつかないような自由な発想があり、新しい取り組みに果敢に挑戦する勇気もあり

ますよね。なかでも「奥多摩ガチャポン」は、なかなかインパクトのある取り組みでした。当時マスコミにも取り上げられて話題になり、奥多摩町のPRにも一役買ってくれましたね。

松本 あれは、若者向けのお土産品が少ないから、遊びに来た若者が喜んで買って帰るようなものを開発したいという学生の発案から始まり、地域資源である鹿の角を使ったアクセサリーを作りガチャポンで無人販売するというビジネスモデルに発展したんですね。そして、実際に作って設置したところ話題になり、町の人たちに学生

の活動を知っていただくきっかけにもなりました。

町長 その後、2022年には奥多摩町と連携協定を結び、2024年3月にはAUBA（アウバ）が完成、と活動をさらに広げていただいています。

松本 AUBAは、奥多摩にはスパーがなくて不便だから作ったらいいのではないかと、学生の単純な思い付きからスタートしました。そこで町民の方々にアンケートを取ったところ、「スパーが欲しい」という意見と共に、「交流できる場が欲しい」という意見も、

※AUBA…松本祐一ゼミ主導により奥多摩町駅近くに設立されたカフェ（多機能型地域活性化拠点）。詳細はp.27へ



奥多摩町長
師岡 伸公

1953年生まれ。明治大学商学部卒業。衆議院議員公設第一秘書などを経て、2020年5月より奥多摩町長を務める。



多摩大学経営情報学部 教授
多摩大学総合研究所 所長
松本 祐一 教授

1972年生まれ。慶應義塾大院生時代に、学生NPOの立ち上げを経験、市場調査会社で商品開発に携わり2019年より現職。また、2021年から多摩大学総合研究所所長に就任。多摩地域を中心に企業、行政、NPOの事業開発支援に従事し、セクターを超えた「協創」をコーディネートしている。



住民ワークショップの様子



松本ゼミの学生たちによる町内活動(ゴミ拾い活動)の様子
町内活動の後はAUBAでコーヒーを飲みながら交流をするのが楽しみ



ゆず狩りの手伝いをする
松本ゼミの学生たち



AUBAでコーヒーを淹れる
松本ゼミの学生スタッフ



さまざまな人の協力のもと
2024年に開業したAUBA

町の移住施策の効果で増えている若い世代を中心に出来ました。ならばスーパーと交流拠点を作ったらいのではないかとということで、町長に提案させていただきました。

町長 スーパーの出店については、町としてもいくつかの企業と協議していたのですが、この商圏だけでは正直売上げ的に厳しいため難航していました。そうしたなかで、学生さんからなかなかおもしろい提案を頂いたので、私としても何とか実現させられないかと思い、関係部署と協議を始めてもらったわけです。その結果、奥多摩駅前の商店街にある町が持っている空き店舗を活用できそうだというところで、そこから加速度的に話が進んで行きました。

松本 追加調査で、ビジネスとしてスーパーは無理でも、ちょっとした物販やイベントができる多機能型地域活性化拠点であれば成り立ちそうだということが見えてきましたので、より活動しやすいよ

を飲みに行きましたけれど、その際、棚を見ていたお客さんに「この木いいですね。どこで手に入りますか？」と聞かれた学生スタッフが、すぐさま、「ご紹介しましょうか」と生産者につなげている様子を拝見しました。それがとても自然で、人と人とを結びつける交流拠点になりつつあるんだなあと。頼もしいですね。今後の展開にも期待しています。

子どもから高齢者まで みんなで作った 第6期長期総合計画

町長 奥多摩町役場の庁舎は老朽化が進んだ非常に厳しい状態にあることから、2027年度完成を目標に新庁舎の建築を進めています。この計画に際しては、新庁舎建設委員会を立ち上げ、広く町民の皆さんの意見を聞きながら、「本当に必要なのか」という根本的なところから時間をかけて議論し、最終的に防災や福祉、教育等の観点から、やはり新庁舎は建設すべきだという意見にまとまった経

う連携協定を結ばせていただき、町の予算で店舗改修などもしていただきました。

町長 最初にご提案頂いた学生さんはもう卒業されているわけですが、あのときの彼らの熱い思いは後輩の皆さんにしっかりと受け継がれているようですね。

松本 思いを継承するということは我々のゼミとしても意識していて、例えばその代でできなくても諦めずに、次の世代、その次の世代で実現していこうと話しています。今回も、何代にもわたって思いをつなぐなかで、町民の皆さんの共感をいただき、さらに完成までのプロセスでいろいろな方にご協力をいただきましたが、なんとか実現させることができました。

町長 2024年3月のオープニングセレモニーには多くの卒業生も駆けつけ、自分のことのように喜んでおられた。みんな良い顔をしていましたね。

緯があります。この間、松本先生には新庁舎建設委員会の委員長として町民が議論に参加する流れを作っていただき、施策に結び付ける本当の「聞く力」を持つ委員会を運営していただきました。

松本 私が作ったというよりは、町の雰囲気が変わってきたのです。これは奥多摩町に限ったことではないのですが、住民の多くは行政の作る計画にあまり関心がありません。ところが今回の庁舎建設では、町民の方々も独自に話し合いの場を設け意見を集めて、それをパブリックコメントに上げるという動きが出てきたので、これまでのような行政主導ではなく、より住民の皆さんの声を取り入れて進めて行かなければと考えて、住民から寄せられる生の声を委員会で共有しつつ、どうしたらよい庁舎になるのかを議論して行くことにしたのです。そうしたなかで、町民も、行政も、交流人口の方々も、みんなで一緒になって奥多摩を作っていこうという雰囲気醸

交流拠点AUBAを核に 醸成しつつある協業イズム

町長 2024年8月からはカフェも営業されています。午前中だけですが、いろいろな人が立ち寄って好評のようですね。

松本 山登りで早朝来られる方の居場所がないという町民のお話から、午前中だけのカフェがいいのではないかと学生の意見が集約し、奥多摩在住の建築家のご指導のもとで内装を整えたり、奥多摩駅2階のガタコーヒーさんからコーヒーの淹れ方を教えていただいたりしながら準備を進めて、8月1日から地域の方と共同でカフェを始めました。今後については、レンタルスペースや、棚を活用した物販等のアイデアを検討しています。

町長 AUBAを核に、町民や周辺の飲食店に「協業でやろう、みんなで盛り上げていこう」というイズムが生まれてきていることが嬉しいですね。私も何回かコーヒー

成されていた。これは大きな変化でした。

町長 まさに「みんなで作る奥多摩」ですね。そういう空気が醸成されたことは、奥多摩町にとって非常に大きな財産です。第6期長期総合計画もその空気のなかでみんなで作っていただくと、引き続き松本先生に深く関わっていただくことにしました。

松本 私はこの20年間に数十の行政の総合計画等に関わってきたのですが、そのほとんどが、コンサルタント会社に依頼し作成してもらった案を審議会で議論し、それを内部調整するとともにパブリックコメント等で住民の意見も取り入れた形にして完成させるというパターンでした。しかし本来、長期総合計画は住民のための計画です。町民も当事者として捉え、自分たちが参加できる計画としていくことが大事なはずです。

その点、今回の計画は、庁舎建設からの流れで、奥多摩町に心を



第6期長期総合計画

奥多摩町が大切にする姿勢

CHERISHED PRINCIPLES

奥多摩町は、自然豊かで人口規模は約4,500人の、一人ひとりの顔が見えるまちです。以下の5つの姿勢を大切にし、奥多摩町の目指す将来像を実現するため、一人ひとりが取り組み、想いをもってまちづくりを進めています。

CHERISHED PRINCIPLES

1

「豊かな自然」を大切にします

CHERISHED PRINCIPLES

2

「わたし」＝「一人ひとり」を大切にします

CHERISHED PRINCIPLES

3

「くらしやすさ」を大切にします

CHERISHED PRINCIPLES

4

「町内外のつながり」を大切にします

CHERISHED PRINCIPLES

5

「挑戦」と「学び」を大切にします

寄せる多くの人々の意見を聞くことから始め、役場の若手職員によるワーキンググループが中心になって策定するという、まったく新しいやり方で取り組んだ総合計画です。これはとても画期的なことで、周辺自治体も注目しているようです。

町長 計画の策定者と実践者が同じなので、込められた「思い」も継承されていくわけですね。どんな仕事であれ思いが無ければ続きませんから、重要なポイントの一つだと思います。

それから、今回ワーキンググループに参加してもらった20～30代の10名の職員ですが、彼らはまさに先頭に立ってこれからの奥多摩町を作っていく存在です。職務とはいえなかなか大変な日々だったとは思いますが、今回彼らが、自分たちが動いたことで町民のみなさんに少しでも寄与できたと感じてくれたのなら、大成功。成長の機会になっただけでなく、今回得た経験が必ず将来のスキルアップにも役立つはずですから。

持続可能なまちをめざして

町長 さて、こうして作られた第6期長期総合計画がいよいよスタートします。満足のいく計画ができましたので、今後はどうそれを我々行政が町民とともに実現していくかになるわけです。

そこで先生にお聞きしたいのですが、先生は奥多摩町の未来をどのようにお考えですか？

松本 持続可能な社会にしていこうということが世界規模での課題になっていますが、こうすれば確実にできるという答えはどこにもありません。では、どうすべきか。私は、今回の長期総合計画のキーワードでもある、「活性化」「持続化」「効率化」のバランスをうまく取りながら、どうすれば持続可能なまちになるのかということを、考えてやり続けるしかないのではないかと思っています。それは奥多摩町も同じで、奥多摩町は最前線なんだという意識を持ってやり

続けること、そういう人が増え続けることが重要なのです。奥多摩町はそれができる、可能性のあるまちだと感じています。

町長 今、奥多摩でどのような事業をやったら町民に喜んでもらえるかということを実践に考え、例えば、1000円以上注文頂ければ配達しますとか、曜日限定で新鮮なお刺身を用意しますといった挑戦を始める方が、移住者、関係人口を含めて出て来ています。私は、そうした方々に加え、以前からこの町を守ってきた方々、そしてAUBAを拠点として活動する学生さんたちがうまくコラボレーションすることで、実現できることは増えていくんじゃないかと期待しているんです。実際、この町には頑張ってくれている人がたくさんいるわけですから。そして、そうした方々を長期総合計画のなかで結び付け、線にしていこうことが我々行政の責務だと思いますし、同時に、住民の半数を占める高齢者の方々にとっても、これから

も安心して暮らすことのできるまちにするために、医療体制を含めた生活基盤の整備と地域づくりを進めて行きたいと思っています。

「誰のためになるのか」と言う視点を忘れず、撤退したり是正したりする勇気も持ちながら、「みんなで作る奥多摩」を合言葉に現実の部分で総合計画を進めて行きますので、松本先生には引き続きご協力いただけたらと思います。今日はありがとうございました。



AUBAでコーヒーを飲みながら。話はつきません

江戸時代にはすでに栽培が始まっており、将軍家に献上され江戸の食文化を支えていたとも伝わる奥多摩わさび。奥多摩町は、現在も全国第6位のわさび生産地です。一方で、ピーク時には300名だった栽培農家が50名程度に減少するなど、深刻な高齢化と後継者不足に陥っており、2019年の台風19号で破壊されたままのわさび田も見られます。

町では、「わさび塾」を開催し、奥多摩に伝わる伝統的な栽培方法「奥多摩式」の伝承とわさび栽培の担い手の育成に努めています。これは、熟練のわさび農家を講師に迎え2年間に10回の研修を行うというもので、これまでに90名以上が受講しました。終了後に町内でわさび栽培に従事する人もおり、わさび田の復興やわさび農家のネットワークづくりにもつながっています。

令和元年の壊滅から復活 わさび栽培



採りたてすりたてのわさび丼は絶品



伝統的な奥多摩式のわさび田



INTERVIEW

TOKYO WASABI わさびブラザーズ

縁あって5年前から奥多摩でわさび栽培をしています。アウトドアフィールドとして魅かれて訪ねた奥多摩でわさびと出会い、天然の生わさびのおいしさと傾斜地に広がる瑞々しいわさび田の美しさに魅了されるとともに、わさび農家の方々と交流するなかで、担い手不足など奥多摩のわさび産業が抱える課題も知ることとなり、僕たちが少しでも力になれるかと考え移住しました。

現在は、地元農家からお借りした5aほどのわさび田で栽培、出荷する傍ら、わさび田の復興にも取り組んでいます。また、商品開発やキッチンカーでの販売、奥多摩のわさびを五感で味わってもらう

ツアーといった、わさびを知ってもらうための活動も行っています。

さまざまな効用があると考えられるわさびは、自ら毒素を出して周囲の植物を排除しながら生育する面白い植物なのに加えて、歴史や文化など興味深いストーリーもあります。僕たちはこの魅力的な日本原産のスパイスに、大いなる可能性を感じています。



わさび食堂で販売中の奥多摩わさびドッグ

TOKYO WASABI 角井仁さん・竜也さん 神奈川県横須賀生まれ。奥多摩産のわさび栽培を守り広める。わさび体験、BBQスペースのレンタル、フードトラック「わさび食堂」を出店などの活動も行う。



奥多摩町は、全域が秩父多摩甲斐国立公園という恵まれた環境であることに向き合い、自然と共生し、観光資源を大切にできるまちです。

白丸湖に架かる数馬狭橋



さまざまな人気ツアーを開催(森林ヨガ・星空観察・そば打ち体験・溪流釣り体験 ほか)



ガイドウォーク

心、身体、生き返る 森林セラピー



森林セラピーとは、科学的な証拠に裏付けされた森林浴のこと。ストレスの減少や、副交感神経活動が高まり、血圧の低下など多くの癒し効果が検証されており、森を楽しみながら心と体の健康を維持・増進することで病気予防を目指します。

2008年4月に奥多摩町全域が森林セラピー基地に認定され、全国初の森林セラピー専用ロード「香りの道・登計トレイル」を含む5本のセラピーロードを整備しました。また、専用ガイド「森林セラピーアシスター」を育成し、森林セラピーを推進しています。町内外の方を対象に、基本となるウォーキングと、ヨガ、テラリウム、藍染め、星空観察、ムササビ観察、釣りなどを組み合わせた多彩なツアーを年間200回ほど実施し、毎年約2000名が参加しています。

SPECIAL SIGHTSEEING SPOTS IN OKUTAMA

自然の彫刻が広がる世界

日原鍾乳洞

東京都の天然記念物に指定され、全長800mという関東でも随一のスケールを誇る日原鍾乳洞。気温は夏でもヒンヤリ涼しい約11度。江戸時代から知られる、悠久の時間が織りなす自然の神秘と幻想の世界を存分に味わえます。



他にも奥多摩にはオススメスポットがたくさん！詳しくはp.44へ

守る、だけでなく、育てる、使う 森との付き合い方

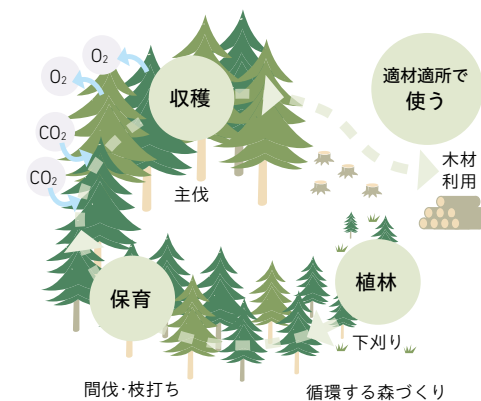


町全域が秩父多摩甲斐国立公園に含まれ、町の94%を森林が占める奥多摩町。先人から受け継いだこの雄大な自然は、未来へつなぐべき大切な財産です。しかし、奥多摩町の森林の多くは人工林であるため、適切に管理しなければ森を維持できません。また、林業で栄えた時代に植林した木々が立派に成長しているにも関わらず、ここ数十年、外国産材の台頭や担い手不足により林業従事者が激減し、製材所も相次いで廃業したため、

せっかくの地域資産を活用することも難しい状況です。こうしたことから、今後、東京都の水源地を除く私たちの森を、どのようにして守り活かしながら後世につなげていくかが、近年、町にとって大きな課題となっていました。そうしたなか、2020年に野村不動産グループより「森を、つなぐ」東京プロジェクトの提案がありました。これは、奥多摩町に企業として山を保有し、生物多様性を維持しつつ、「植林」「保育」「収穫」

「森を、つなぐ」というサイクルを回して循環する森づくりを行うとともに、生産した木材のサプライチェーンを構築し、収穫した木を製材し都市部で活用するという経済循環も創出して、地元の産業や雇用の創出をも目指すという100年先を見据えた壮大なプロジェクトです。町では慎重に検討を重ねた結果、2021年8月に「奥多摩町と野村不動産ホールディングス株式会社との持続可能な社会の実現に関する包括連携協定」を、22年9月には、町が保有する約130haの森林に関する30年間の地上権設定契約を締結しました。

未来を見据えた新しい取り組みが、奥多摩の森で始まっています。



森林サイクルを促進し、CO₂吸収量を増幅します



「つなぐ森」第1回伐採時に切り出された杉



「わたし」＝「一人ひとり」 を大切にします



奥多摩町は、年齢や性別、国籍などにとらわれず、一人ひとりの個性が光るまちであることを大切にしています。

「きこりん」でのベビーマッサージセミナーの様子

みんなでサポート

子育て支援の取り組み



少子化が急激に進むなか、子どもと家庭を取り巻く環境も大きく変化しています。奥多摩町では、子どもを安心して産み育てることができる環境を整えるため、2008年に「奥多摩町子ども・子育て支援推進条例」を制定し、国や都に先駆けて町独自の支援事業を展開するとともに、支援の範囲も拡げてきました。これから必要に応じて事業の見直しを行い、

当事者である子どもの意見も聞きながら、「夢を見るすべての子どもたちが、夢を語り、実現できるまち」を目指しさらなる充実を図っていきます。

孤立化を防ぎ 笑顔の子育てを応援

子育てにおいて、仲間の存在は大きいものです。町では、地縁血縁のない人も孤立することなく子育てができるよう、

子ども家庭支援センター「きこりん」で、親子で集うwaraリズムやリトミック、子育て世代を対象にしたママヨガ、パヤゴといった交流イベントを頻繁に実施するとともに

安心できる

子どもの居場所づくり

核家族化や女性の社会進出が進むなか、放課後の子どもの居場所づくりが求められています。町では、2つの町立小学校に併設された学童保育に加え、放課後子ども教室「わさびひろば」を2024年3月より実施し、次代を担う子どもたちが楽しめるよう、英語教室やボルダリング教室、折り紙、木工といったモノづくりなどを無料で開催しています。



「わさびひろば」にて
こけテラリウム制作の様子

奥多摩町 子ども家庭 支援センター



きこりんは、地域みんなで子どもを守り、すべての親がゆとりを持って子育てができるように、子育てサロンをはじめ様々な事業を展開。誰でも気軽に利用することができます。

子どもに関する相談
相談員への相談や臨床心理士による心理・発達相談。

子育てサロン
waraリズムやリトミックなど子育てに役立つ知識の講習。

絵本といっしょ
絵本の相談や読み聞かせ。

ファミリー・サポート・センター
地域のなかで協力しながら子育て。





競技中の様子

僕がカヌーと出会ったのは、小学校1年生の時に参加した白丸湖でのカヌー教室でした。最初の頃は楽しさよりも転覆した時の怖さ、カヌーが楽しいと思えるようになったのは小学校4年生で競技カヌーを知ってから。流れに乗って川を下り、個人やチームで速さを競うことがおもしろく、中学生から本格的に力



カヌー・スラローム・アスリート 瀬寝 大亮 さん



ヌー・スラロームという競技をやるようになりました。現在は、都内の大学で法律を学びながら、日本代表チームの一員としてロサンゼルスオリンピックを目指し、週6日、カヌー・スラローム・センターの人工コースで練習しています。奥多摩に帰ってくるのは月に1度程度。子どもたちに楽しさを伝えたいという思いから、カヌー教室で指導することもあります。奥多摩でカヌーをしていると、雄大な自然と一体になった感覚になり、心が洗われ癒されます。この気持ちよさをより多くの人に知ってもらい、カヌーを広めていきたいと思っています。

瀬寝大亮さん 2003年生まれ。5歳の時に奥多摩に移住。小学1年の時にカヌーに出会う。2021年度から現在に至るまでオリンピック強化指定選手認定(年度毎の選考会によって決まる)。



小学校での授業の様子



子ども国際交流音楽祭

奥多摩町では、次世代を担う人材の育成を目指して「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成する教育を行うとともに、子どもたちの生きる力を育むため、学校、家庭、地域が連携して、生涯を通じて学び合えることのできる地域社会の実現と、町の中と外から関心をもたれる教育のまちづくりを推進しています。

地域の人から体験を通して 伝統や文化を学ぶ 「奥多摩学習」

奥多摩町ならではの取り組み「奥多摩学習」にも力を入れています。小学校では、郷土の伝統や文化の理解を深めるため、生活科や総合的な学びの時間を中心に実施しているほか、漁業組合の協力を得て奥多摩やまめの養殖施設を見学

寄り添ったきめ細やかな教育指導を行っています。グローバル人材を育成するため、小学校からA・L・Tを配置して、日常的な触れ合いによる外国語活動を充実させています。また、1人1台学習用タブレット端末を配備し、授業中に活用するとともに、電子黒板などのICT機器を活用した授業づくりにも力を入れています。

町内外から関心をもたれる 教育のまちづくり



こんなに充実！ 奥多摩町の子育て支援

安心して子どもを生み、育てられる町をめざして

乳幼児

- 保育園入園時に係る費用の一部助成
- 保育園の保育料全額助成
- 医療費を全額助成



高校生

- 進学時に係る費用の一部助成
- 通学費(電車・町内バスの定期代)を全額助成
- 医療費を全額助成



その他の子ども・子育て支援事業の内容

- 不妊検査、不妊・不育治療助成事業
- 産後ケア支援事業
- 産後健康診査等充実事業
- インフルエンザ予防接種費用一部助成事業
- ファミリー・サポート・センター利用助成及び病後児預かり助成事業
- 学童保育会育成料助成事業

小・中学生

- 入学時に係る費用を一部助成
- 通学費を全額助成
- 医療費を全額助成
- 中学生の制服等購入費を全額助成
- 多子家庭またはひとり親家庭の学童保育費の全額または一部助成



家族

- 水道料金一部助成(多子家族)
- ごみ袋購入費を助成(ひとり親、多子家族)



※税等の滞納がないこと等、助成の要件があります。

ほかにも子育てに関するさまざまな支援を行っています。詳しくは下記まで

子育て支援総合窓口(こども家庭センター) Tel: 0428-85-2611 Fax: 0428-85-1300

視野を広げ、可能性を広げる 豊富な交流事業

学校外での豊かな経験は、子ど

域住民や団体と連携して郷土学習を深めることは、持続可能な社会の担い手としての資質・能力の育成につながります。奥多摩町では、義務教育9年間を通して、自ら未来を切り拓く力を育み、グローバルに活躍する人材を育成しています。



オーストラリアへの海外派遣事業

もの人格形成や人としての成長に良い影響を与えるとされています。町では、小学生を対象とした神津島洋上セミナーや子ども国際交流音楽祭、オーストラリア派遣事業などを実施し、子どもたちの成長を後押ししています。放課後や長期休みを利用した体験教室も活発です。放課後子ども教室「チャレンジおくとま」では、町内の文化団体による木工、ちぎり絵、将棋、電子工作、陶芸といった多岐にわたる教室が開かれています。また、奥多摩スポーツ協会も体験教室を通して様々なスポーツとの出会いを提供しており、子どもたちは、活動を楽しみながら自身の可能性を広げています。



神津島洋上セミナー

奥多摩病院井上院長に聞く 奥多摩町の医療



町民の安心安全を根底で支える存在の、奥多摩町立奥多摩病院。井上大輔院長を含む4名の総合診療医が勤務しており、外来、救急、入院、在宅、福祉施設の診療まで多岐にわたる医療形態を実施し、特定の診療科に偏ることなくあらゆる病気や怪我の治療にあたるとともに、乳幼児健診から高齢者の在宅の看取りまで、すべての年齢層のさまざまなニーズに対応しています。また、町内に設けられた2か所の出張診療所での週1〜2回の診療や、病院から遠く離れた集落への往診も行っています。

奥多摩病院では、「最期まで奥多摩で暮らしたい」という町民の声や、山間僻地に定義され高齢化が進む町の状況を鑑み、医師、看護師、理学療法士、薬剤師によるシームレスな療養支援

や、周辺機関との連携による地域包括ケアシステムを構築し、すべての町民が安心してそれぞれの人生を全うできるような基盤を整えてきました。後継者確保につながる「おくたま清流塾」での総合診療医の育成や、リハビリ体制の充実、患者、家族、医療関係者が終焉について話し合うACP（人生会議）への取り組みなども進んでおり、理想的な体制が確立されつつあります。

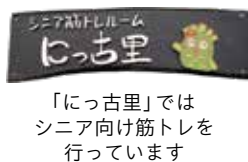
井上大輔 医師 2012年奥多摩病院に出向、2018年奥多摩病院院長に就任。専門は総合診療（内科外科一般、在宅、救急）。総合診療専門医特任指導医。



奥多摩病院

一人ひとり丁寧に問診

老後も元気でいるために 高齢者支援の取り組み



「にっちり」ではシニア向け筋トレを行っています

住み慣れた地域でいきいきと人生を全うすることは、すべての町民の願いです。奥多摩町では介護予防の一環として、2つの「通いの場」を設けています。「にっちり」（にっこり）では筋トレマシンを備えており、専門指導員のもと体づくりを励みながら他の参加者との交流も楽しめます。

もう一つの「来るっく〜」（くるっく〜）は、認知症予防を主目的として町が一般社団法人に運営の一部を委託。誤嚥を防ぐ口腔体操やリン



食事がおいしいと好評の「来るっく〜」

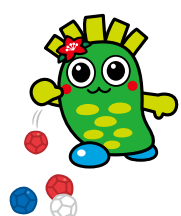
パマッサージなどの体操と一流ホテル出身のシェフの手作りランチを楽しんだ後には、ボランティアスタッフとともにトランプやカラオケなどで賑やかに過ごしています。

一方、地域の方が会食を通して交流機会を増やすことを目的とした「ふれあい食堂」を、各生活館や鳩ノ巣駅前「さんらく」で毎月一回開催しています。地域住民が協力してカレーを作り、参加者みんなで食卓を囲んで楽しい時間を過ごしています。



「ふれあい食堂」ではカレーを提供しています

町民の健康を守る 健康増進の取り組み



元気で活力ある奥多摩町であり続けるため、町では各種健康診断や予防接種の実施、健康増進活動に積極的に取り組んでいます。

年20回ほど開催する森林セラピーは、春は花見、蛍の時期にはナイトハイクを取り入れるなど多彩なプログラムとなっており、自然を楽しみ地元の良い良さを再認識する機会にもなっています。

また、「元氣アップおくたま」と銘打ち、各地区の生活館を保健師や管理栄養士が定期的に訪ね、健康や栄養に関する講話や簡単な運動、健康診断に基づく健康相談を



森林セラピーの様子（登計トレイルにて）

行い、町民の健康意識の高揚を図っています。加えて保健推進員の協力のもと、40・50代の方を対象に生活習慣病予防を目的とした「健康づくり教室」を開催しています。さらに、介護予防の取り組みとして住民が自主的に近くの生活館に集まり、体操やゲームを楽しみながら健康づくりをする自主体操グループが、自治会や高齢者クラブの協力で続々と立ち上がっています。



自主体操グループで人気の「ばいばいゲーム」



元氣アップおくたまの様子（日原生活館にて）

手作りのパンやクッキーが大人気 障がい者支援の取り組み



人気の手作りクッキー

障がいのある人々の日中活動を支援しているのが、障害者地域活動支援センター「かもんみーる」です。2007年の設立以来、障がいのある方が地域と交流しながら自立した生活が送れるよう活動の幅を広げてきており、2020年には拠点となる建物も完成しました。

鳩ノ巣駅前にある同センター内には、調理器具を備えた工房をはじめ、軽作業や手芸、創作活動が

できる複数の部屋が設けられており、幅広い年代の利用者がそれぞれの状況に合わせて無理のない範囲で通い、パンやお菓子を作ったり、自治体や企業から請け負った軽作業や清掃に取り組んだりしています。また、福祉会館やきこりんでは、工房で作ったパンやピザのほか軽食を出す「たんぼカフェ」の運営を担っており、接客を担当する利用者もいます。



施設内での仕事（工房作業・軽作業・清掃作業）



2020年に完成した「かもんみーる」



秋の火災予防運動週間にヘリポートに集結



新春を飾る恒例の消防出初式

消防団の活動

地域の安全を守る



地域の安全を担っているのが、6分団からなる消防団です。各団にポンプ車と積載車が配備されており、消防団員は仕事を持ちながらも、ひとたび火災の知らせが入ると奥多摩消防署と共に現場に向かい、消火活動などを行います。町の94%を森林が占める奥多摩では、山火事の被害を最小限に抑えるための初期対応に加えて地震、風水害、雪害時等の救援活動も重要な任務です。消防団では日ごろから出動要請に備えて定期的な訓練や操法訓練などをしており、操法審査会では、東京都の大会でも優秀な成績を収めています。

近年、高齢化、担い手不足が全国的な課題となるなか、2020年度より女性団員の加入も奨励しています。団本部に所属し広報活動を担っていますが、今後は消火活動や災害対応等にも活動の幅を拡げていく予定です。



週に一度のスーパー移動販売車「とくし丸」は大賑わい



おしゃべりも楽しみのひとつ

町では、高齢者等が町内のどこでも買い物ができるような支援の取り組みをこれからも進めていきます。

近年、町内のスーパーや鮮魚店の閉店、高齢化の進展に伴い、買い物環境の改善を求める声が役場に寄せられていました。採算性の問題からスーパー等の新たな出店が難しいことから、町では以前から地域の生活を支えてきた「引き売り」と呼ばれる移動販売に着目。既存の農協や他県の事業者に加え、移動販売を統括するスーパーに交渉した結果、2023年8月より、町内2か所で営業が始まり、現在町内の10か所で展開しています。

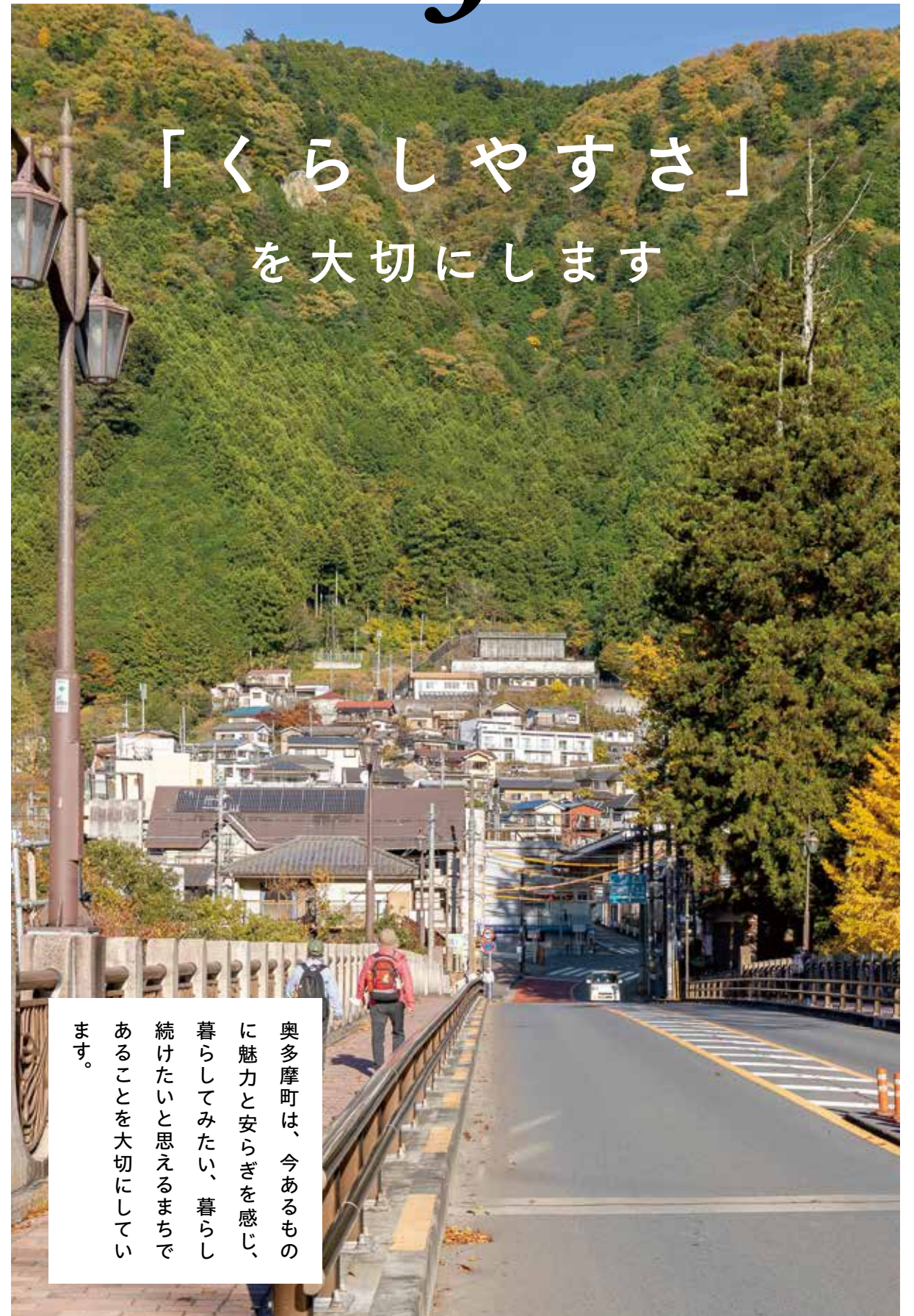
これまでも店舗のない地域の買い物を支えていただいている農協や他県事業者と合わせて自宅の近くで買い物ができる取り組みが進められています。新たな事業者は、近隣の市にある店舗から仕入れてくるため新鮮な刺身をはじめ、生鮮食料品から日用雑貨まで幅広く積み込み、まるで小さなスーパーのよう。品質を見て選ぶという買い物本来の楽しさを味わえることもあり、多くの町民が訪れ、地域の新たな交流の場となっています。

山奥でも不便のない生活を 買い物支援の取り組み



「とくし丸」

「くらしやすさ」を大切にします



奥多摩町は、今あるものに魅力と安らぎを感じ、暮らしてみたい、暮らし続けたいと思えるまちであることを大切にしています。

町の中心を走る「氷川大橋」と「青梅街道」

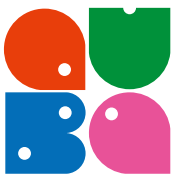


「町内外のつながり」 を大切にします

奥多摩町は、奥多摩ならではの顔が見えるつながりと、奥多摩に関わる多様な人との絆を大切にできるまちです。

棚沢の獅子舞

多摩大学との取り組みで、新しい風を AUBA（アウバ）



奥多摩町と多摩大学は、包括的な連携を通じて開かれた地域社会を志向し、自然豊かな奥多摩町を軸とした地域社会への貢献を図ることを目的とした連携協定を、2022年に締結しました。その活動の一端として、町有建物を活用して設けられたのが、多機能型地域活性化拠点「AUBA」です。

奥多摩駅から徒歩2分ほどの場所にある「AUBA」は、多摩大学の学生と町民の協働により、早朝から奥多摩に訪れる登山客や出勤前の方々に香り高いコーヒーを提供するカフェや、町内外のさまざまな人のチャレンジを応援するレンタルスペースとして運営されています。町に賑わいをもたらすとともに、人と人、人とモノ、人とコトが「会う、合う、逢う、遇う」機会を創出し、新たなアイデアやビジネスが生まれる場になっています。

山の中でも、交通手段は充実 奥多摩町の交通



奥多摩町にとってJR青梅線は、生命線ともいえる交通機関です。町では、2018年より青梅ー奥多摩間を「東京アドベンチャーライン」と称し、専用のラッピング車両を走らせるなどして観光客の誘致に努めているJR東日本八王子支社と連携して様々な施策を展開してきました。

利用者確保に向けた新たな事業にも協働で取り組んでおり、沿線全体をホテルに見立てる地域活性化プロジェクト「沿線まるごとホテル事業」では、古里地区に中核

となる宿泊施設「Satologue（さとログ）」がオープンし、新たな滞在型観光、マイクロツーリズムの創出に向け引き続き連携を図ります。また、青梅線沿線の小学校に通う生徒が描いた絵を列車内に展示する「車内絵画展」を開催するなど、マイルール意識の醸成にも力を入れています。

もう一つの生命線である路線バスについては、観光客と町民、双方の利便性を確保しつつ効率的な運行ができるよう、西東京バスと定期的に調整会議を行い、運行ダイヤの決定や経営改善に向けた情報交換を行っています。また、町内で開催するイベントでは、バス利用の促進を図る取り組みも行っています。



ラッピングが楽しい
「東京アドベンチャーライン」

「いろんな人と交流できて楽しい」と語る
多摩大学の伊藤さん



町産材で構成された居心地の良い店内



奥多摩町の特産品

お土産品 & ふるさと納税品

奥多摩わさび^(P15参照)を始めとした奥多摩町の豊かな自然で育まれる特産物を、観光資源として持続的に生産、活用できるよう、環境整備や体制づくりを進めています。

ふるさと納税でも大人気！



VERTERE (パテレ)

2014年創業のクラフトビールメーカー。飲んだ人の価値観を変えるビールを目指してさまざまなスタイルのビールを醸造し、世界に向けて発信しています。レシピ調整を繰り返し徹底的にバランスを追求した、複雑でこちょよいアロマが魅力。世界に誇るメイドイン奥多摩の味を、ぜひ奥多摩で！



100年の歴史！

治助イモ

奥多摩町に100年以上前から伝わる昔ながらのジャガイモ。その昔、治助というお爺さんが種芋を持ち帰り奥多摩地域に広まったのがきっかけで「治助イモ」と呼ばれるようになりました。普通のジャガイモと比べて粘りが強く煮崩れしにくく味が濃厚で美味しいという特徴があります。



※治助イモは奥多摩町で商標登録しています。(商標登録第5499902号)



やまぼこ

奥多摩町的小河内漁業協同組合が製作している、以前は廃棄されていた卵を絞った後のメスヤマメ(※人工授精後のオスも含む)を丁寧にさばき、一つひとつ型に詰めた揚げまぼこ。塩焼きが主流の川魚のヤマメを、すり身の加工品にしました。



奥多摩やまめ



東京の森が生み出す野菜を堪能！

四季の家

地域資源、無添加、無駄なく使うをモットーに、手作りにこだわり奥多摩ならではの土産品を開発している四季の家。わらび、柚子、たけのこなど、その時期に旬を迎える地域の野菜や山菜を集め、丁寧に下処理してオリジナルの液に付け込んだ「東京森のピクルス」は、見た目も味もおしゃれな逸品。奥多摩の湧水で仕込み1年間自然熟成させた無添加みそ、奥多摩産のわさびや地元の食材を使用した加工品も豊かな香りと深い味わいで人気があります。

郷土芸能

伝わる、守る、伝える

奥多摩町では郷土芸能が古くから盛んで、現在も、獅子舞12、お囃子2、そして、川野の車人形、小河内の鹿島踊、神庭の神楽といった17の郷土芸能が、各地域の郷土芸能保存団体の並々ならぬ努力と熱意のもとで継承されています。一方で、過疎化や高齢化の影響で継承に苦慮する状況も続いており、残念ながら3団体が活動を休止しています。

奥多摩町の郷土芸能は、国重要無形民俗文化財に指定されるとともに、ユネスコ無形文化遺産にも登録されるなど、奥多摩にとどまることのない貴重な財産です。町では、これら欠かすことのできない郷土芸能をこれからも伝えていくため、以前から保存団体の協力のもと準備段階からすべての演目に至るまでを詳細に記録した映像記録を作成するなど、後世へとつなげるべく活動を続けています。



1～5. 2024年奥多摩郷土芸能祭にて(2.小河内の鹿島踊(国指定重要無形民俗文化財/ユネスコ無形文化遺産) 3.川野の車人形(国指定重要無形民俗文化財) 4.笛方 5.栃久保の獅子舞)



1.原の獅子舞。中央の赤い獅子が原島さん

INTERVIEW

獅子舞が大好き！



小河内・原の獅子舞 保存会員 原島範子さん

幼い頃からお祭りや舞踏が好きで、奥多摩にも獅子舞を見に来ていました。迫力ある舞に魅かれ、やってみたいと思いつつも、町外の女性では無理だろうと諦めていたところ、原地区の保存会に受け入れていただき、2014年から獅子舞をやらせてもらえるように。町外の自宅から2時間かけて練習に通い色々な演目が舞えるようになった今も、獅子舞に魅了され続けています。

INTERVIEW

守るためにできることを！



奥多摩郷土芸能 保存団体協議会会長 坂本房雄さん

コロナ禍で3年間にわたり各地域のお祭りが開催できなかったにも関わらず、2023年に全地域で再開され、2024年9月、17団体揃って31年振りに「奥多摩郷土芸能祭」を開催できたことは、私たちの誇りです。しきたりに囚われ過ぎず、どうしたら後世につなげていけるのかを最優先に、工夫し新しい風も取り入れながら、これからも郷土芸能を守り伝えていけたらと思います。



整備中の分譲地

奥多摩町では、将来的な高齢化率の上昇と人口減少を見据え、2009年度より「町営若者住宅」をはじめ、補助金の支給や利子補給等の移住定住推進事業を幅広く実施し、次代を担う若者の移住と定住を推進してきました。その結果、現在では町の全人口の約8分の1、年少人口の半分以上を移住者が占めるようになっており、奥多摩町への移住を希望する人も年々増えています。

町の人口維持のために 移住定住制度



町ではそうした人々の移住を応援しさらなる定住化を進めるため、「空き家バンク」の充実を図るとともに、「奥多摩に暮らしたい人登録バンク」も運営し、住まいに関する情報を提供しています。

また、分譲事業も実施し、安全性の高い分譲地を、2024年度は川井地区に7区画、2025・2026年度の2か年では丹三郎地区に10区画を整備する計画が進んでおり、今後とも拡げていく予定です。

豊かな自然環境で暮らしたいあなたを応援

移住定住を応援します



町営若者住宅

若い方が町に永住するための第一歩になればと、町が管理する低額な家賃設定の住宅を提供しています。

【年齢条件】●40歳以下の夫婦 ●50歳以下の者で、中学生以下の子どもがいる世帯

移住・定住応援補助金

次代を担う若者世代の移住定住を応援するため、奥多摩町に住宅など購入された方に補助金の交付を行っています。

【内容】住宅の新築・購入・リフォームの事業費が一定以上で補助金支給。さらに、町内事業者の利用、または地場木材の活用で奥多摩町商業共同組合商品券を上乗せ 【年齢条件】●45歳以下の夫婦 ●高校生以下の子どもがいる世帯 ●35歳以下の単身者

利子補給

奥多摩町に、定住を目的とした住宅を、購入またはリフォームなどされた方に、資金借入に対する利子補給を行っています。

【内容】融資金額が一定以上に加え、償還期間10年以上で利子補給 【年齢条件】●45歳以下の夫婦 ●高校生以下の子どもがいる世帯 ●35歳以下の単身者

空家バンク

空家等を所有されている方にご登録いただいた物件を町のホームページで公開。空家の購入・賃貸借希望者より申し込みを受け、奥多摩町（もしくは町指定媒介者）が物件交渉から契約完了まで仲介します。

子育て応援住宅

町が建設した新築住宅に、22年間定住すると譲与されます。

【条件等】●43歳以下の者で中学生以下の子どもがいる世帯 ●地域活動に積極的に参加すること

いなか暮らし支援住宅 若者定住応援住宅

町所有物件に15年間以上継続して定住した場合、住宅等を譲与いたします。※土地および建物は現状での引き渡しになるので、リフォーム等に係る費用及び定住に係る費用は申込者の負担となります。

■いなか暮らし支援住宅
【年齢条件】●45歳以下の夫婦 ●高校生以下の子どもがいる世帯

■若者定住応援住宅
【年齢条件】●40歳以下の夫婦 ●中学生以下の子どもがいる世帯

ほかにも移住定住に関するさまざまな支援を行っています。詳しくは下記まで

定住応援総合窓口（子育て定住推進課）Tel：0428-83-2310 Fax：0428-83-2344

「挑戦」と「学び」 を大切にします



奥多摩町は、歴史あるものから学びながら、新しい物事に挑戦できるまちであることを大切にしています。

移住者 INTERVIEW



1〜3. まちづくりや教育に興味がある村上さん。運営する「ニュー駄菓子屋サンマ」にはチャレンジショップの側面もあり、子どもたちが自発的にイベントを発案することも。いろんな人の「やってみたい」を応援したいと語ります。4. 休日に妻の明日華さんとカヤックを楽しむ様子



” やりたかったことに挑戦しています “

ダウンシフトを実現し、自分らしく暮らす

23区内で会社員をしていたのですが、激務な上、友人とも遊びすぎ、少しゆっくりしたいなと思うようになったのが奥多摩です。自然の中でキャンプや焚火をしていると、息苦しさから解放され身も心も癒されていくのを感じ、その心地よさに魅かれて、自然な流れで移住を決めました。

今住んでいる「町営若者住宅」からは10分も歩けば河原に降りられるので、天気の良い週末には、妻と焚火やラフティングを楽しみながら、心身ともに健やかな日々を送っています。

奥多摩町は若者の移住支援が充実していて生活コストを極端に下げられるのも大きな魅力でした。無理をしてお金を稼ぐ必要がなく



奥多摩駅から徒歩5分にある「ニュー駄菓子屋サンマ」

なったので、移住を機に働き方も変え、妻はフルリモートに転職。僕は起業して、やりたかったことにフォーカスした事業をいくつか行っています。

その一つが「ニュー駄菓子屋サンマ」。氷川地区の空き物件を借り、2024年10月にオープンしました。「みんなで営むパブリック」をコンセプトに、子どもも大人もふらりと立ち寄って寛いだり、何かやってみたいことがあった時に挑戦できたりする、公共性の高い場所にしていくと思っています。

2023年4月
中野区から移住
村上 天悠さん・
明日華さんファミリー

移住者 INTERVIEW



秋山さんの暮らす「町営若者住宅」は、裏道を抜けると駅まで徒歩10分ほどながら、里山を背負う自然豊かな場所にあり、サルや鹿も訪れる。ご近所の方から、収穫したての旬の野菜をいただくことも多く「食育にもつながっています」と尚子さん。



” 地域のなかで子育てができています “

自然豊かな場所で、人のあたたかさに触れながら

娘が生まれ、どの様に育てていくかと夫婦で話し合うなかで見えてきたのが、自然や四季を感じながら暮らせる場所で育てたいという、共通した思いでした。そんなとき、奥多摩へ恩師のアトリエを訪ねる機会がありました。そこでは里山の中に人々の暮らしが感じられ、すぐ良い所だなと惹かれたんです。それで翌週末に家族で再訪したところ、妻もすっかり気に入って、調べてみると、移住支援や子育て支援も充実していたので、早速「子育て応援住宅」に応募。残念ながら外れたものの、改めて応募した「町営若者住宅」に当選し、あれよあれよという間に引っ越してきました。

あれから2年半。4歳になった娘には、町のあちこちに「じいじ」



いただき物の柚子で作った柚子シロップ

と「ばあば」がいますし、僕らも地元の方、移住者ともに顔見知りが増え、交友関係が広がっています。ご近所の方にも仲良くしていただいている、季節のお野菜やお料理のおすそ分けをいただくことも多いですね。こちらからも何かあるとおすそ分けをさせてもらっていて、近い距離感でのおつきあいに、あたたかさや心地よさを感じています。

移住後に奥多摩町内に転職し、以前から興味があった観光業に携わっています。観光施設の立ち上げから参加させてもらっているのでも、やりがいのある仕事を通じて町にも貢献していけたらと思っています。

2022年6月
国分寺市から移住
秋山 拓実さん・尚子さん
詠ちゃんファミリー



災害に強く、地域に優しい庁舎へ

2027年度
完成予定！



みんなのひろばより見るアプローチのイメージ



エントランスのイメージ



底下縁側通路より見たイメージ



キッズスペース、みんなのリビング、窓口のイメージ

次世代につながるシンボルに
建設から60年近くが経過し、老朽化と耐震基準に課題を抱えていた奥多摩町役場庁舎。町では庁舎建設委員会を組織し、住民説明会やパブリックコメントを通して広く町民の意見も取り入れながら、検討を重ねてきました。その結果をもとに、「誰もが親しみやすく、訪れやすい庁舎であるとともに、地域住民の安全・安心を確保するため、災害時には危機管理対応を果たす『防災拠点』としての機能、そして地域コミュニティの活性化につながるような、一人ひとりが

イメージする『奥多摩らしさ』を併せ持つ庁舎」を基本理念とした建設計画を立て、2027年度の完成を目指しています。
奥多摩駅東側、線路沿いの敷地約5800㎡に建設する新庁舎には、屋内に「みんなのひろば」を設置。屋外に「みんなのひろば」を設置。会議室や相談室に加え、多様な用途に対応できる議場など、さまざまな工夫をしながら、災害時にももちろん、町民にとっても使い勝手の良い親しみを持てる庁舎を目指しており、多摩産材等を積極的に活用し、将来につながるシンボリックな建物としています。

議会・行政

多様な人材が参画し
住民に開かれた議会を目指して

奥多摩町議会は、選挙で選ばれた10名の議員により構成されています。町民の代表として町の方針や予算、条例など行政の重要項目の審議、議決する機関です。議員自身による政策提案として、意見書、決議という形や、議員立法で条例を制定するなど直接的に政策形成を行うこともできます。年4回の定例会のほか、必要に応じ臨時議会が開かれます。また、総務文教、経済厚生、2常任委員会に分かれて、調査活動や請願・陳情の受理、審議などを行っています。議会では、多様な人材が参画し住民に開かれた議会を目指して、町民のみなさんに議会活動をより広く知ってもらうために広報機能の充実と、議会の見える化を目指して、見やすい議会だより、誰もが



左から 井上 永一(副町長)、師岡 伸公(町長)、野崎 喜久美(教育長)

視聴できるシステムを構築しています。
奥多摩町議会は、これからも町民目線に立ち、町民みなさんの声を町政に届け、子どもからお年寄りまでのすべての町民が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。



町議会議員 後列左から 森田 紀子、相田 恵美子、榎戸 雄一、高橋 邦男、伊藤 英人
前列左から 大澤由香里、宮野 亨、小峰 陽一(議長)、澤本 幹男(副議長)、原島 幸次



データで見る奥多摩町

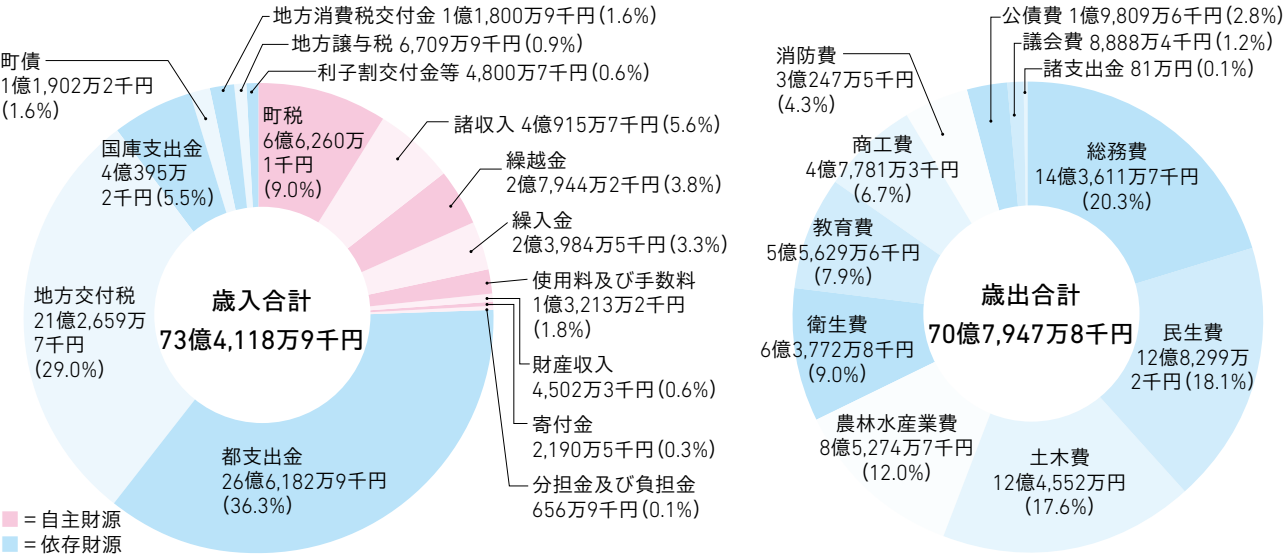
2025 VER.

自治会別人口と世帯数の推移

住民基本台帳 各年1月1日現在

自治会	川井	大丹波	梅沢	丹三郎	小丹波	棚沢	白丸	大氷川	常磐	長畑	南氷川	栃久保	大沢	日原	海沢	境	中山	原	川野	留浦	峰谷	計
平成17年	人口 531	506	175	345	1,020	683	320	568	422	232	270	477	75	156	669	167	118	106	66	42	148	7,096
	世帯 201	171	62	181	360	259	174	220	223	97	106	195	35	82	368	65	47	44	28	21	79	3,018
平成22年	人口 482	443	154	306	898	623	273	498	394	221	242	433	67	129	612	141	84	90	54	38	124	6,306
	世帯 192	167	60	178	345	262	167	214	228	99	102	186	33	72	364	62	39	40	26	22	70	2,928
平成27年	人口 439	387	124	276	814	518	228	412	359	191	211	366	53	110	601	114	69	70	44	25	100	5,511
	世帯 187	164	56	170	340	234	154	190	211	88	92	172	29	62	369	57	34	37	21	16	56	2,739
令和2年	人口 415	363	111	266	832	461	195	352	294	186	189	313	41	92	572	104	62	62	40	19	69	5,038
	世帯 186	162	52	168	358	222	137	177	187	91	89	159	27	54	374	58	33	32	22	13	42	2,643
令和7年	人口 379	307	103	240	788	409	194	303	240	154	182	261	39	66	532	89	49	48	31	18	60	4,492
	世帯 187	155	46	156	352	211	143	161	166	84	83	146	23	42	360	51	24	25	16	12	36	2,479

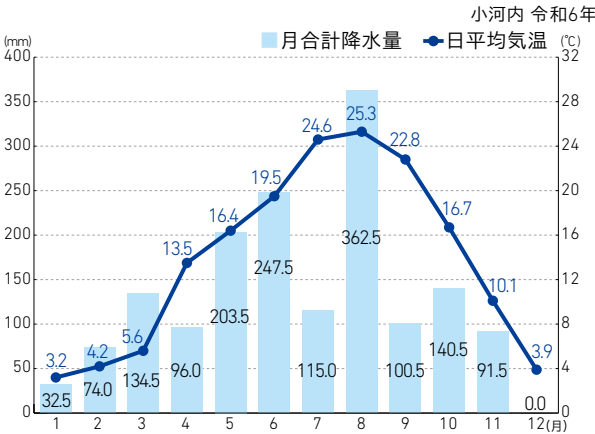
令和5年度一般会計歳入歳出決算



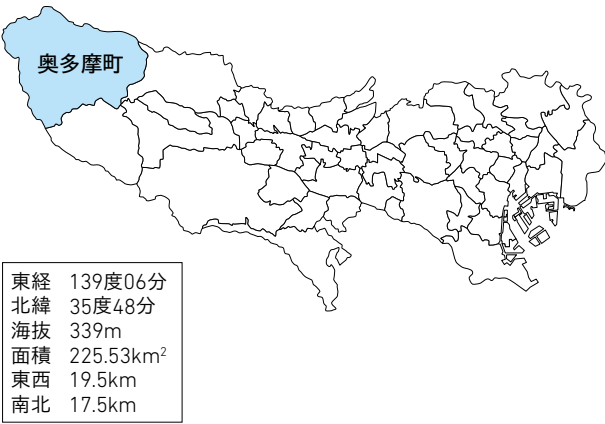
自治功労者

氏名	表彰年月日
須崎 眞	令和5年11月3日
河村 文男	令和3年11月3日
前田 悦夫	令和元年11月3日
鈴木 賢一	平成29年11月3日
清水 典子	平成29年11月3日
小澤 春智	平成27年11月3日
師岡 幸男	平成27年11月3日
澤本 章男	平成23年2月18日
奥平 春男	平成22年2月29日
大館 精一	平成17年11月3日
安藤 満成	平成15年11月3日
酒井 浩夫	平成13年9月7日
小峰 武男	平成9年11月3日
原島 芳雄	平成7年11月3日
川辺 三郎	平成3年11月3日
島崎 文夫	平成3年11月3日
森田 武男	平成3年11月3日
島崎 三郎	平成3年11月3日
原島 芳雄	平成元年11月3日
木村 利男	昭和62年12月21日
原島 桂太郎	昭和62年11月3日
村木 弥之助	昭和60年11月3日
大館 勇吉	昭和58年11月3日
佐久間 藤一	昭和58年11月3日
坂村 美平	昭和54年11月3日
木村 量平	昭和54年11月3日
小峰 芳作	昭和54年11月3日
原島 正国	昭和52年11月3日
小川 丈右衛門	昭和50年10月5日
川邊 七郎	昭和47年11月20日
清水 固一	昭和46年11月20日
古屋 忠良	昭和46年11月3日
廣瀬 貞三	昭和46年11月3日
酒井 義春	昭和43年11月3日
滝島 太七	昭和43年11月3日
原島 仙助	昭和43年11月3日
大澤 哲治	昭和41年5月3日
島崎 新七	昭和41年5月3日
竹島 徳宝	昭和40年5月3日
野村 喜祐	昭和40年5月3日
木村 源兵衛	昭和40年5月3日
原島 謙益	昭和39年10月21日

気温・降水量

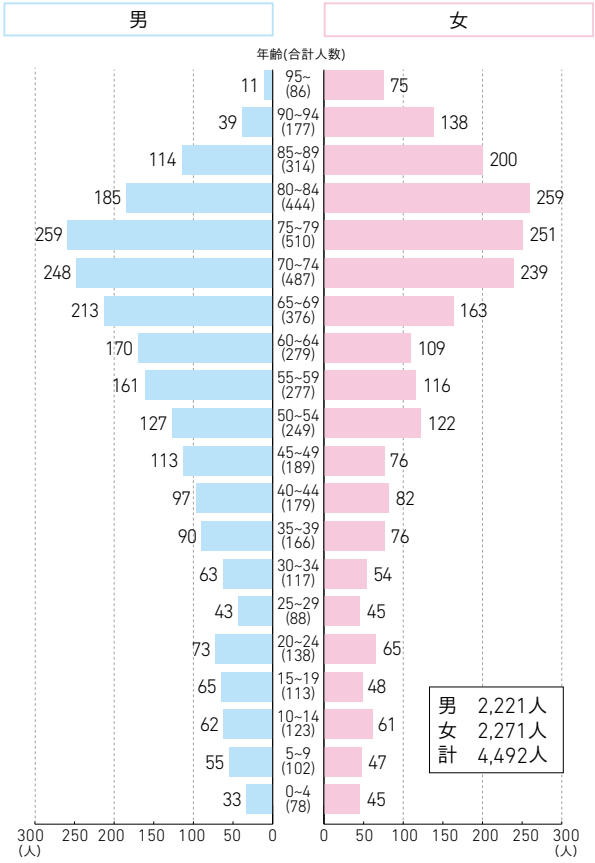


位置



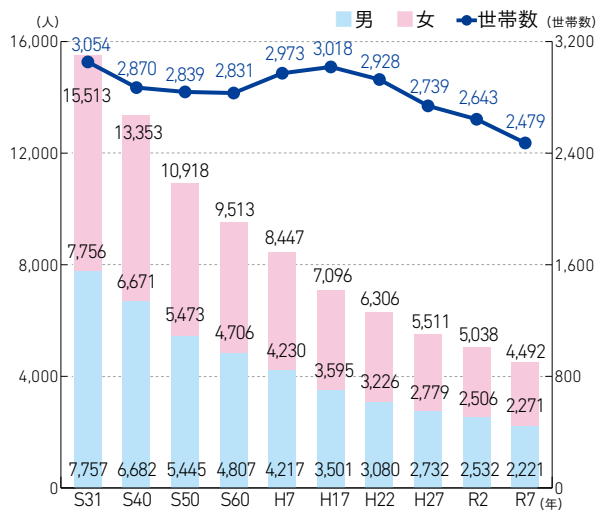
年齢別人口

住民基本台帳 令和7年1月1日現在



人口と世帯の推移

住民基本台帳 各年1月1日現在



人口動態

令和6年中

転入	206人
転出	147人
出生	11人
死亡	182人
合計 増	217人
合計 減	329人

奥多摩町年表

昭和30年	1955
4月	● 古里村、氷川町、小河内村が合併し奥多摩町誕生
	● 初代町長に木村源兵衛氏就任
	● 初代議長に廣瀬貞三氏就任
5月	● 奥多摩町消防団発足(16分団 団員1000人)
	● 奥多摩町婦人会結成
7月	● 旧小河内村の慰霊塔、愛宕山頂に完成、英霊73柱を合祀
昭和31年	1956
1月	● 旧氷川町の慰霊塔愛宕山頂に完成、英霊178柱を合祀
3月	● 奥多摩観光協会設立
5月	● 奥多摩町体育協会発足
6月	● 大丹波国際釣場オープン
9月	● 第1回町内野球大会開催(18チーム参加)
10月	● 第6回秩父多摩国立公園指定記念祭開催
昭和32年	1957
3月	● 氷川中学校日原分校廃校
4月	● 二代目町長に原島謙益氏就任
5月	● 新町建設協議会発足
6月	● 小河内ダム貯水開始
7月	● 万世橋(小丹波、丹三郎)、深山橋、峰谷橋完成
10月	● 小河内小、中学校開校式
11月	● 小河内貯水池名称募集、「奥多摩湖」に決定
	● 小河内貯水池完成
昭和33年	1958
2月	● 小河内出張所庁舎完成
4月	● 国保直営氷川診療所が奥多摩病院に改称
	● 有線放送電話開通
昭和34年	1959
1月	● 奥多摩湖畔で温泉祭開催
3月	● 西多摩郡青梅市合同消防大会奥多摩湖畔で開催
4月	● 都立多摩高校奥多摩分校開校
5月	● 大沢国際釣場竣工

5月	● 20周年を記念して川苔谷町有林に顕彰碑建立
10月	● 第1期奥多摩町長期総合計画を策定
昭和51年	1976
3月	● 町長選挙執行佐久間藤一氏当選(七代)
6月	● 峰谷会館で巡回診療所を開設
昭和52年	1977
6月	● 青梅商工会議所奥多摩支所が開設
昭和53年	1978
3月	● 氷川小学校道所分校廃校
4月	● 郷土資料館オープン
	● 古里歯科診療所診療を開始
10月	● 日原三つ又に新鍾乳洞発見
昭和54年	1979
4月	● 小河内ダム新取水口完成
昭和55年	1980
2月	● 日原トンネル(1107メートル)が完成
3月	● 町長選挙執行川辺文夫氏当選(八代)
10月	● 国立公園指定30周年記念式典に皇太子殿下、妃殿下御臨席(ダムサイド)
	● 消防少年団発足
昭和56年	1981
7月	● シルバー人材センター高齢者事業団発足
昭和57年	1982
4月	● 主要道路青梅甲府線が国道411号線に昇格
	● 行政地区から自治会制度に切替え
昭和58年	1983
4月	● 第3セクター奥多摩総合開発株式会社発足
7月	● 西多摩地域広域行政圏協議会発足(3市5町1村加盟)
昭和59年	1984
3月	● 町長選挙執行佐久間藤一氏当選(九代)
4月	● 緑と水ふれあいのさと「森林浴の町」を宣言
5月	● 役場新庁舎(氷川215-6)が完成し業務を開始

8月	● 昭和橋開通
9月	● 新郷土民謡「奥多摩音頭」「多摩川小唄」発表会開催
10月	● 雲取山奥多摩小屋完成
昭和35年	1960
4月	● 町章制定
7月	● 奥多摩民謡「つなねき峠」「炭焼小唄」振付発表会開催
10月	● 秩父多摩国立公園指定10周年記念式典に秩父宮妃殿下御臨席(奥多摩湖畔)
昭和36年	1961
4月	● 氷川小学校道所分校新築開校(道所から中山沢へ移転)
	● 氷川小学校日原分校が独立校となる
10月	● 町長選挙執行原島謙益氏当選(三代)
11月	● 天皇、皇后両陛下奥多摩湖行幸啓
11月	● 奥多摩郷土芸能大会開催(奥氷川神社境内)
昭和37年	1962
11月	● 「奥多摩の教育」創刊
12月	● 都交通局多摩川第3発電所ダム(白丸)完成
昭和38年	1963
1月	● 公明選挙推進の町宣言
4月	● 日原に簡易郵便局開局
	● 梅沢、丹三郎、小丹波の南岸道路(現吉野街道)開通
昭和39年	1964
3月	● 町長選挙執行川邊七郎氏当選(四代)
	● 北氷川橋竣工
8月	● 水不足のため奥多摩湖の湖底が現れる
9月	● 学校給食センターによる給食開始
昭和40年	1965
5月	● 川苔町有林長沢山伏谷へ都がオリンピック記念造林を行う
8月	● 海沢下野原遺跡発掘調査実施
10月	● 奥多摩湖湖上祭開催
昭和41年	1966
4月	● 湖底のふるさと歌碑除幕式挙行
9月	● 社会福祉協議会発足
12月	● 丹波山村、小菅村と消防相互応援協定締結

昭和42年	1967
4月	● 都知事を迎えオリンピック記念植樹(川苔谷)
6月	● 川苔谷に菊花石発見話題となる
8月	● 財団法人木村要学会発足
昭和43年	1968
3月	● 町長選挙執行川邊七郎氏当選(五代)
4月	● 消防団改組(16分団と本部を6分団と本部に)
5月	● 全国わさび生産者大会開催(氷川農協)
10月	● 明治100年総合記念第1回町民体育祭開催
11月	● 明治100年総合記念第1回総合文化祭開催
昭和44年	1969
3月	● 女夫橋(栃久保)完成
昭和45年	1970
4月	● 奥多摩商業協同組合発足
昭和46年	1971
2月	● 氷川駅を奥多摩駅と駅名を改称
5月	● 寸庭橋、雲仙橋(棚沢)、氷川小橋完成
	● 檜原村を結ぶ大沢入林道開通
9月	● 名誉町民木村源兵衛逝去、町葬執行
10月	● 消防本部で救急業務開始
昭和47年	1972
3月	● 町長選挙執行佐久間藤一氏当選(六代)
昭和48年	1973
4月	● 奥多摩有料道路(現周遊道路)開通
5月	● 福祉会館が開館
	● 秋川地区消防組合および檜原村と消防相互援助協定締結
7月	● 登計原遺跡発掘調査
10月	● 法務局氷川登記所廃止
昭和49年	1974
4月	● 都消防庁へ消防事務を委託、奥多摩消防署発足
10月	● 第1回消防ポンプ操法発表会開催
昭和50年	1975
4月	● 奥多摩町発足20周年を記念し、町の花(ミツバツツジ)、木(スギ)、鳥(ヤマドリ)と町旗を制定

1月	● 名誉町民河村大助氏逝去
3月	● 奥多摩町誌発行
4月	● 第2期奥多摩町長期総合計画策定
	● 新氷川トンネル(605メートル)完成
11月	● 町制施行30周年記念事業で町民憲章の制定、タイムカプセル埋設
昭和61年	1986
2月	● 氷川大橋が完成
4月	● 愛宕山園地にふれあいと彫刻「創造の森」オープン
11月	● 第1回奥多摩ふれあいまつり開催
昭和62年	1987
3月	● 峰谷川溪流釣場がオープン
	● 鳩の巣大橋完成
4月	● 川井丹縄に「松下起久雄墨彩むかし絵美術館」(現せせらぎの里美術館)開館
	● 学童保育クラブ開設(氷川)
5月	● 奥多摩消防署山岳救助隊が発足
昭和63年	1988
3月	● 町長選挙執行佐久間藤一氏当選(十代)
	● 日原川溪流釣場オープン
4月	● 学童保育クラブ開設(古里)
5月	● 奥多摩病院改築完成
7月	● 電算機本格的稼働による総合窓口業務開始
10月	● 奥多摩ヒジターセンター(旧役場庁舎跡地)オープン
11月	● 優良自治体・自治大臣表彰記念銅像「ほこり」建立
平成元年	1989
5月	● 奥多摩町クリーンセンター業務開始
8月	● 武蔵野国産の保奥多摩清流太鼓打手会発足
平成2年	1990
2月	● 倉沢のヒノキが「新・日本名木百選」に選ばれる
4月	● 町防災行政無線局の開局
8月	● スポーツコミュニティ会館が完成
10月	● 山のふるさと村(都立奥多摩湖畔公園)第1次オープン

平成3年	1991
4月	● 移動図書館「やまびこ号」巡回開始
5月	● 第44回東京都「山の植樹祭」が常磐で開かれる
7月	● 火災による死者ゼロ10年達成
8月	● 台風12号による大災害
9月	● 鶴の湯温泉30余年ぶりに復活
平成4年	1992
3月	● 町長選挙執行古屋泰司氏当選(十一代)
5月	● 町長選挙執行大館誉氏が当選(十二代)
7月	● 小河内ダム冷水対策工事完成
11月	● 第1回郷土芸能祭開催
	● 5142番目の小惑星が「奥多摩」と命名される
平成5年	1993
4月	● 登計原山村広場運動公園オープン
7月	● 奥多摩都民の森オープン
平成6年	1994
3月	● 日原小学校廃校
4月	● 山のふるさと村全面オープン(クラフトセンター完成)
8月	● 「喜多郎」コンサート開催
10月	● 奥多摩町森林館オープン
平成7年	1995
2月	● 町長への手紙スタート
4月	● 第3期奥多摩町長期総合計画策定
5月	● 中国浙江省淳安県との友好交流促進に関する覚書締結
8月	● 奥多摩文化会館オープン
	● 川苔山周辺の森が「水源の森百選」に選ばれる
	● 愛宕山に「平和の鐘」建立
11月	● 皇太子・同妃殿下雲取山御登山
	● 川合玉堂・奥田元宗先生歌碑を建立(数馬峽橋)
平成8年	1996
3月	● 白丸地内に環境保全林「平成不伐の森」が指定される
4月	● 奥多摩町保健福祉センターオープン
	● 奥多摩大橋完成
	● 過疎地域に指定される(過疎地域活性化計画策定)
5月	● 町長選挙執行大館誉氏が当選(十三代)

6月	● 奥多摩町行政改革大綱策定	
平成9年	7月	● 日原ふるさと美術館オープン
10月	● 奥多摩駅「関東の駅百選」に選ばれる	1997
平成10年	3月	● 移動通信用鉄塔施設完成
4月	● 中国浙江省淳安県との友好交流関係を締結する協定書に調印	1998
7月	● 高齢者住宅サービスセンター、訪問看護ステーションオープン	
7月	● 奥多摩湖周辺部（小河内処理区）公共下水道供用開始	
11月	● 奥多摩水と緑のふれあい館オープン	
平成11年	10月	● 奥多摩町在宅介護支援センター開設
10月	● 柳田国男・田山花袋訪町100周年記念の集い開催	1999
平成12年	3月	● 有線放送電話業務終了
4月	● 防災行政無線開局	2000
5月	● 氷川国際釣り場リニューアルオープン	
10月	● 町長選挙執行大館誉氏が無投票当選（十四代）	
11月	● 秩父多摩甲斐国立公園指定50周年記念式典開催	
	● 白丸発電所（白丸ダム）運転開始	
平成13年	3月	● 都立多摩高校奥多摩分校廃校
5月	● 東京消防庁奥多摩ヘリポート完成	2001
5月	● 多摩川南岸道路愛宕大橋・愛宕トンネル開通	
平成14年	4月	● 入湯税の課税開始
	● 奥多摩病院訪問看護事業を開始	2002
	● 白丸ダム魚道完成	
11月	● 森林再生事業はじまる	
平成15年	4月	● 海沢大橋完成
		2003

6月	● 奥多摩消防署管内火災による死者ゼロ80000日達成	
9月	● 中国浙江省淳安県との友好交流10周年記念式典開催（奥多摩総合運動公園ふれあいの丘に記念碑の建立、記念植樹実施）	
平成16年	3月	● 小河内小・中学校閉校
5月	● 町長選挙執行河村文夫氏当選（十五代）	2004
7月	● 交流宿泊体験施設「ねねんぼう」日原にオープン	
11月	● 町内の山林でシカによる食害が深刻化	
	● J A 西東京奥多摩支店が古里支店に統合される	
平成17年	2月	● 光ファイバー高速通信サービス順次利用開始
3月	● 奥多摩湖がダム湖百選に認定	2005
4月	● 第4期奥多摩町長期総合計画策定	
	● 多摩川南岸道路神庭東橋完成	
7月	● 奥多摩町福祉会館改築完成（木造となる）	
12月	● 子ども家庭支援センター開設	
	● 「核兵器廃絶平和な町」を宣言	
平成18年	4月	● 地域包括支援センター開設
5月	● 食肉処理加工施設開設	2006
6月	● 奥多摩処理区公共下水道事業着手	
8月	● 老人デイサービスセンター「森の時計」オープン	
平成19年	4月	● 「おくたま海沢ふれあい農園」開設
7月	● 奥多摩町障害者地域活動支援センター開所	2007
平成20年	4月	● 子ども子育て支援事業スタート
	● 都内初の「森林セラピー基地」に認定	2008
5月	● 町長選挙執行河村文夫氏当選（十六代）	
平成21年	4月	● 森林セラピー基地グランドオープン
5月	● 東京都と「奥多摩町水道事業都営一元化の基本協定」を締結	2009
11月	● 古里地域における99か年地上権定地の期限が満了	

平成22年	3月	● 奥多摩町学校給食センター（小丹波完成
4月	● 水道事業が都営一元化される	2010
平成23年	3月	● 東日本大震災発生
4月	● 奥多摩町子ども家庭支援センター（きこりん）オープン	2011
6月	● 一般財団法人おくたま地域振興財団設立	
	● 西秋川衛生組合「奥多摩町加入に伴う協定書の調印式」	
平成24年	3月	● 日向歩道橋完成
5月	● 町長選挙執行河村文夫氏当選（十七代）	2012
平成25年	5月	● 秋川流域斎場組合（ひので斎場）加入
9月	● スポーツ祭東京2013（第68回国民体育大会 自転車競技（ロードレース）開催	2013
	● 青梅警察署と相互の連携強化と犯罪を起こせない町づくりを目指し覚書を締結	
平成26年	2月	● 大雪により小河内・日原地域など孤立化「陸上自衛隊の派遣要請」
平成27年	1月	● 特別養護老人ホーム運営法人と「災害時における福祉避難所の開設等に関する協定」を締結
3月	● 古里中学校と氷川中学校の統合に伴い両校閉校	2015
4月	● 第5期奥多摩町長期総合計画策定	
	● 町のイメージキャラクター「わさび」誕生	
5月	● 奥多摩中学校開校	
	● 奥多摩の風「はとのす莊」グランドオープン	
10月	● 町制施行60周年記念式典「子育て・若者定住応援宣言」	
	● 奥多摩町消防団発足60周年記念祝賀会	
	● 日本鍾乳洞サミット in 奥多摩開催	
平成28年	5月	● 町長選挙執行河村文夫氏無投票当選（十八代）
6月	● 特定環境公共下水道	2016
	● 奥多摩処理区事業完了：全地区供用開始	
10月	● 最後の町民体育祭開催	

● 東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー			
平成29年	2月	● 奥多摩消防署新庁舎完成	2017
	7月	● 火災による死亡ゼロ50000日達成	
	8月	● 2017 雲取山記念講演会	
	10月	● 奥多摩町・神津島村・友好交流協定締結	
	11月	● 小河内ダム竣工60周年記念座談会	
平成30年	1月	● 棚沢地内山林火災により陸上自衛隊の派遣要請	2018
	6月	● 奥多摩スポーツフェスティバル開催	
平成31年	4月	● 奥多摩小屋閉鎖（4月1日）	2019
	● 奥多摩駅舎リニューアル		
	● 町交流宿泊体験施設リニュアルオープン（やすらぎの宿「ねねんぼう」）		
令和元年	6月	● 土砂災害特別警戒区域の指定	2019
	10月	● 台風第19号による大災害（日原街道崩落による日原地域の孤立化、氷川から古里地区の広範囲で1週間以上の断水、町内全域で林道ワサビ田に大きな被害）「自衛隊災害派遣要請」	
	● 青梅警察署と「児童虐待の未然防止と早期発見に向けた情報共有等に関する協定」を締結		

令和3年	1月	● 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、国から緊急事態宣言が再び発令（1月7日）
4月	● 〆soda（株）と駐車場シェアリング連携協力に関する協定締結	2021
8月	● 1年遅れで東京2020パラリンピックを開催	
	● 奥多摩町と野村不動産ホールディングス（株）の持続可能な社会の実現に関する包括連携協定締結	
10月	● 東京アドベンチャーライン3周年記念イベント	
11月	● 再生可能エネルギーPR館（エコっと白丸）オープン（東京都交通局）	
令和4年	3月	● 東京都ドクターヘリの運行開始
4月	● シニア筋トレルーム（「つ古里（こり）」オープン	2022
6月	● 選挙の投票所を一部変更（第7投票所と第8投票所の統合および第11投票所と第12投票所の統合）	
9月	● 奥多摩町と多摩大学の連携に関する協定締結	
11月	● 小河内の「鹿島踊」がユネスコ無形文化遺産に登録	
令和5年	1月	● 川野車人形が国の重要無形民俗文化財に答申される
7月	● 森林環境譲与税の活用に係る都内連携に関する協定（多摩の森「活性化プロジェクト」）の締結	2023
11月	● 西多摩電設工業協同組合と「災害時等における電気設備の応急対策業務に関する協定」締結	
令和6年	3月	● 「放課後居場所づくり事業」スタート
	● 多機能型地域活性化拠点「AUBA（アウバ）」オープン（グセレモノー内覧会開催）	2024
4月	● 奥多摩病院全ての診療を「総合診療科」へ	
5月	● 町長選挙執行師岡伸公氏当選（二十代）	
	● 飯島製材所と「持続可能な資源循環に向けたパートナーシップ協定」締結	
	● 高齢者集いの場「来るつくし」オープン	
	● TOKYO長寿ふれあい食堂事業開始	
9月	● 奥多摩郷土芸能祭開催（31年ぶり）	
令和7年	2月	● 西秋川衛生組合・構成市町村（奥多摩町を含む1市2町1村）がサントリーグループとペットボトルの「ボトルtoボトル」水平リサイクルに関する協定を締結

氏名		就任年月日	退任年月日
歴代町長			
木村 源兵衛		昭和30年4月1日	昭和30年4月19日
木村 源兵衛		昭和30年4月30日	昭和32年4月5日
原島 謙益		昭和32年5月1日	昭和36年4月30日
原島 謙益		昭和36年5月1日	昭和39年2月3日
川邊 七郎		昭和39年3月15日	昭和43年3月14日
川邊 七郎		昭和43年3月15日	昭和47年3月14日
佐久間 藤一		昭和47年3月15日	昭和51年3月14日
佐久間 藤一		昭和51年3月15日	昭和55年3月14日
川辺 文夫		昭和55年3月15日	昭和59年3月14日
佐久間 藤一		昭和59年3月15日	昭和63年3月14日
佐久間 藤一		昭和63年3月15日	平成4年4月7日
古屋 泰司		平成4年3月15日	平成8年5月23日
大館 誉		平成8年5月24日	平成12年5月23日
大館 誉		平成12年5月24日	平成16年5月23日
河村 文夫		平成16年5月24日	平成20年5月23日
河村 文夫		平成20年5月24日	平成24年5月23日
河村 文夫		平成24年5月24日	令和2年5月23日
師岡 伸公		令和2年5月24日	令和6年5月23日
師岡 伸公		令和6年5月24日	現在
歴代助役			
田中 百助		昭和31年5月11日	昭和35年5月10日
大館 勇吉		昭和38年4月1日	昭和41年3月31日
村木 弥之助		昭和38年5月20日	昭和38年11月2日
原島 桂太郎		昭和41年4月1日	昭和45年3月31日
原島 桂太郎		昭和45年4月1日	昭和46年12月30日
原島 丈夫		昭和47年5月1日	昭和51年4月30日
原島 丈夫		昭和51年5月1日	昭和55年4月30日
原島 丈夫		昭和55年5月1日	昭和57年3月31日
大場 久		昭和57年4月1日	昭和61年3月31日
大場 久		昭和61年4月1日	平成2年3月31日
大館 誉		平成3年4月1日	平成4年5月18日
小峰 幸憲		平成4年7月1日	平成8年6月30日
小峰 幸憲		平成8年7月1日	平成12年6月30日
河村 文夫		平成12年7月1日	平成16年4月12日
村木 義雄		平成16年7月1日	平成19年3月31日

町の文化財

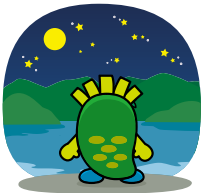
名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
国 指 定 重 要 有 形 民 俗 文 化 財			
小河内の山村生活用具	原5	東京都教育委員会(奥多摩町)	昭和39年 5月29日
国 指 定 重 要 無 形 民 俗 文 化 財			
小河内の鹿島踊	原5	小河内郷土芸能 保存団体協議会	昭和55年 1月28日 (令和4年 11月30日 ユネスコ無形 文化遺産記載)
川野車人形	原5		令和5年3月22日
都 指 定 無 形 民 俗 文 化 財			
小河内の郷土芸能 (川野・坂本・原・峰獅子舞、 小留浦の花神楽)	原5	小河内郷土芸能 保存団体協議会	昭和27年 11月3日
小留浦の獅子舞 附日本獅子舞来由1巻	氷川1275	小留浦獅子舞保存会	平成21年 3月16日
神庭の神楽	海沢824	神庭神楽連	平成25年 3月25日
境の獅子舞	境	境獅子舞保存会	平成27年 3月16日
都 指 定 有 形 民 俗 文 化 財			
小留浦の太子堂舞台 附木造聖徳太子立像・ まわり舞台 大道具1式	留浦320	小河内郷土芸能 保存団体協議会	昭和29年 11月3日
小丹波熊野神社の舞台	小丹波473	小丹波熊野神社	昭和50年 2月6日
川井八雲神社の 舞台及び石崖残敷	川井717	川井八雲神社	
都 指 定 有 形 文 化 財			
木造蔵王権現立像	河内149	小河内神社	昭和31年 3月3日
宝暦箱訴事件大丹波村牢 死者供養碑	大丹波939	覚雄山輪光院	昭和54年 3月31日
木造十一面観音菩薩立像 附木造不動明王立像・ 木造毘沙門天立像	白丸334	石水山十一面 観世音大菩薩護持会	令和3年 3月18日
都 指 定 天 然 記 念 物			
古里附のイヌグス	棚沢7-2	春日神社	大正15年3月
氷川三本スギ	氷川206	奥氷川神社	大正15年4月
白髭大岩	境	白髭神社	
日原鍾乳洞	日原	一石山神社	昭和7年 5月18日
倉沢のヒノキ	日原567	奥多摩町	昭和62年 2月24日
都 指 定 名 勝			
海沢の四滝	海沢字 船ヶくぼ 1267-1ほか	東京都教育委員会・ 奥多摩町・個人	平成12年 3月6日
町 指 定 有 形 文 化 財			
金鳳山普門寺楼門	留浦1284	金鳳山普門寺	昭和52年 11月3日
木造伝三面不動尊立像	棚沢84	不動堂	
木造十一面観音菩薩坐像 附木造毘沙門天立像・ 木造不動明王立像・厨子	留浦1284	金鳳山普門寺	
硬玉製垂玉	原5	奥多摩町	
石剣及び石棒	小丹波	個人	
木造勝軍地藏菩薩騎馬像・ 木造毘沙門天立像・ 木造不動明王立像 附厨子	日原819	個人(奥多摩町)	
木造東照権現坐像 附厨子	日原819	個人(奥多摩町)	
銅製鰐口	原5	個人(奥多摩町)	
海沢下野原遺跡出土品	原5	奥多摩町	
銅製鰐口・銅鏡 附八弁花模様帛沙片	原5	奥多摩町	
木造扁額2面(額文蔵王 権現・額文天照大神宮)	河内149	小河内神社	

名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
光明遍照板碑・附同3基	海沢455	竜岩山向雲寺	昭和52年 11月3日
滑石製垂玉	原5	奥多摩町	
丹斐院阿弥陀堂	小丹波519	西光山丹斐院	
大沢薬師堂の鰐口	原5	大沢自治会(奥多摩町)	
武家文書(杉田家)4通	原5	個人(奥多摩町)	昭和58年 11月3日
武家文書(原島家)3通	丹三郎	個人	
慶長の検地帳(杉田家)3冊	原5	個人(奥多摩町)	
慶長の検地帳(田草川家)1冊	原5	個人(奥多摩町)	
奥氷川神社本殿	氷川178	奥氷川神社総代会	昭和61年 12月17日
武家文書(原島家)4通	丹三郎	個人	昭和63年 12月9日
白丸西の原遺跡出土品一括	原5	奥多摩町	平成8年4月
原の温泉神社本殿彫刻	原273	原獅子舞保存会	
大丹波地蔵平の宝篋印塔	大丹波	個人	
小河内温泉之碑 亀田鵬斎撰文・ 裏面酒井抱一句碑	原273	原獅子舞保存会	
旧倉沢神社(坂和家含む)の仏像 (大日如来坐像・弥勒菩薩立像・ 五大明王・大日如来像・大黒天・ 地藏菩薩半跏像・種子面・扁額 及び納本墨書本地堂額字)	日原819	一石山神社(奥多摩町)	平成15年 5月5日
温泉神社の懸仏	河内149	小河内神社	
日原鍾乳洞出土の古銭と古鏡	日原819	日原保勝会(奥多摩町)	
元禄地図	原5	個人(奥多摩町)	
棚沢村絵図	棚沢	個人	
青目立不動明王像	境1139	奥多摩町	平成20年 11月21日
川井(神塚)の五輪塔	川井	個人	
大丹波(南平)の六地蔵	大丹波	個人	
小丹波(大神)の七地蔵	小丹波	個人	
留浦(峰)の五輪塔	留浦	個人	平成23年 11月3日
徳富蘇峰詩碑	原5	奥多摩町	
日食供養塔	原5	奥多摩町	
江戸期の入れ歯	小丹波	個人	
三田弾正の奉納額	氷川	羽黒三田神社	平成29年 11月3日
町指定有形民俗文化財			
棚沢の薬師堂(瑠璃閣) と本尊薬師如来像	棚沢642	薬師講	平成2年 11月3日
町指定無形民俗文化財			
八雲神社獅子舞	川井	八雲神社獅子舞保存会	
青木神社獅子舞	大丹波	大丹波獅子舞保存会	
棚沢獅子舞	棚沢	棚沢獅子舞愛好会	
元栖神社獅子舞	白丸	白丸獅子舞保存会	昭和58年 11月3日
海沢獅子舞	海沢	海沢下中組獅子連	
奥氷川神社獅子舞	氷川(大氷川)	奥氷川神社獅子舞振興部	
根元神社獅子舞	氷川(栃久保)	根元神社獅子舞保存会	
一石山神社獅子舞	日原	日原獅子舞保存会	
小丹波熊野神社祭囃子	小丹波	こ組はやし連	令和2年 11月3日
南氷川羽黒三田神社祭囃子	氷川(南氷川)	羽黒三田神社囃子振興会	
町指定史跡			
数馬の切通し 附供養碑	白丸358-1 から氷川1-イ	奥多摩町	昭和52年 11月3日
町指定天然記念物			
倉沢鍾乳洞	日原	個人	昭和52年 11月3日
小丹波のイヌグス	小丹波	個人	昭和58年 11月3日
梅沢のイヌグス	梅沢	個人	
槐木のサイカチ	氷川1349	奥多摩町	平成2年 11月3日
向寺地のアカガシ	氷川	個人	

		歴代議長		歴代副町長		氏名	
原島謙益	昭和30年12月3日	昭和30年4月16日	昭和30年11月30日	昭和30年12月3日	昭和30年4月1日	昭和30年5月20日	昭和30年5月19日
廣瀬貞三	昭和30年12月3日	昭和30年4月16日	昭和30年11月30日	昭和30年4月1日	昭和30年5月20日	昭和30年5月20日	昭和30年5月19日
野崎喜久美	令和4年10月1日	令和元年10月1日	令和元年9月30日	令和4年9月30日	令和元年10月1日	令和元年10月1日	令和元年9月30日
若菜伸一	平成28年10月1日	平成24年10月1日	平成20年9月30日	平成24年9月30日	平成28年10月1日	平成24年10月1日	平成20年9月30日
栃元誠	平成24年10月1日	平成20年10月1日	平成16年9月30日	平成24年9月30日	平成20年10月1日	平成16年10月1日	平成12年9月30日
原島金誠	平成20年10月1日	平成16年10月1日	平成12年9月30日	平成20年9月30日	平成16年10月1日	平成12年10月1日	平成8年9月30日
大館眞	平成12年10月1日	平成8年10月1日	平成4年9月30日	平成12年9月30日	平成8年10月1日	平成4年10月1日	平成0年9月30日
高名都雄	平成4年1月13日	昭和63年10月1日	平成3年12月25日	昭和63年9月30日	昭和63年10月1日	昭和59年10月1日	昭和55年9月30日
村木正三	昭和63年10月1日	昭和57年4月1日	昭和63年9月30日	昭和57年3月31日	昭和57年4月1日	昭和53年4月1日	昭和49年3月31日
古屋康利	昭和57年4月1日	昭和51年10月1日	昭和57年9月30日	昭和51年9月30日	昭和51年10月1日	昭和47年10月1日	昭和43年9月30日
土屋高久	昭和47年5月4日	昭和41年11月6日	昭和47年3月25日	昭和41年11月6日	昭和41年11月6日	昭和37年11月6日	昭和33年10月5日
石田正義	昭和40年11月6日	昭和34年5月20日	昭和40年10月5日	昭和34年5月19日	昭和34年11月6日	昭和30年11月6日	昭和26年10月5日
渡辺誠治	昭和31年10月1日	昭和25年4月1日	昭和31年5月19日	昭和25年4月1日	昭和25年4月1日	昭和21年4月1日	昭和17年3月31日
村木義雄	平成16年7月1日	平成12年7月1日	平成16年6月30日	平成12年6月30日	平成16年7月1日	平成12年7月1日	平成8年6月30日
森田茂昌	平成5年1月1日	平成0年1月1日	平成5年12月31日	平成0年12月31日	平成5年1月1日	平成1年1月1日	平成0年12月31日
新修和	昭和64年1月1日	昭和58年1月1日	昭和64年12月31日	昭和58年12月31日	昭和64年1月1日	昭和60年1月1日	昭和56年12月31日
志村修司	昭和60年1月1日	昭和54年1月1日	昭和60年12月31日	昭和54年12月31日	昭和60年1月1日	昭和56年1月1日	昭和52年12月31日
奥平勝藏	昭和56年1月1日	昭和50年1月1日	昭和56年12月31日	昭和50年12月31日	昭和56年1月1日	昭和52年1月1日	昭和48年12月31日
廣瀬源治	昭和52年1月1日	昭和46年4月1日	昭和52年3月31日	昭和46年3月31日	昭和52年1月1日	昭和48年1月1日	昭和44年11月18日
田中行雄	昭和48年1月1日	昭和42年4月1日	昭和48年12月31日	昭和42年12月31日	昭和48年1月1日	昭和44年1月1日	昭和40年11月18日
川辺文夫	昭和46年4月1日	昭和40年5月20日	昭和46年3月31日	昭和40年3月31日	昭和46年4月1日	昭和42年4月1日	昭和38年3月31日
川辺文夫	昭和42年4月1日	昭和36年5月20日	昭和42年3月31日	昭和36年3月31日	昭和42年4月1日	昭和38年4月1日	昭和34年5月19日
原島桂太郎	昭和38年5月20日	昭和32年5月20日	昭和38年3月31日	昭和32年3月31日	昭和38年5月20日	昭和34年5月20日	昭和30年5月19日
村木弥之助	昭和34年5月20日	昭和28年7月1日	昭和34年5月19日	昭和28年6月30日	昭和34年5月20日	昭和30年7月1日	昭和26年6月30日
村木弥之助	昭和30年5月20日	昭和24年7月1日	昭和30年5月19日	昭和24年6月30日	昭和30年5月20日	昭和26年7月1日	昭和22年6月30日
村木義雄	平成19年4月1日	平成13年7月1日	平成19年6月30日	平成13年6月30日	平成19年4月1日	平成15年4月1日	平成11年3月31日
井上永一	令和6年8月25日	令和2年8月25日	令和6年8月24日	令和2年8月24日	令和6年8月25日	令和2年8月25日	令和0年8月24日
村上永一	令和6年8月25日	令和2年8月25日	令和6年8月24日	令和2年8月24日	令和6年8月25日	令和2年8月25日	令和0年8月24日
歴代教育長	昭和31年10月1日	昭和40年10月5日	昭和40年10月5日	昭和40年10月5日	昭和31年10月1日	昭和40年10月5日	昭和40年10月5日
歴代収入役	昭和30年4月1日	昭和30年5月19日	昭和30年5月19日	昭和30年5月19日	昭和30年4月1日	昭和30年5月19日	昭和30年5月19日
就任年月日	平成16年7月1日	平成12年7月1日	平成16年6月30日	平成12年6月30日	平成16年7月1日	平成12年7月1日	平成8年6月30日
就任年月日	昭和31年10月1日	昭和40年10月5日	昭和40年10月5日	昭和40年10月5日	昭和31年10月1日	昭和40年10月5日	昭和40年10月5日
就任年月日	昭和30年4月1日	昭和30年5月19日	昭和30年5月19日	昭和30年5月19日	昭和30年4月1日	昭和30年5月19日	昭和30年5月19日
就任年月日	令和6年8月25日	令和2年8月25日	令和6年8月24日	令和2年8月24日	令和6年8月25日	令和2年8月25日	令和0年8月24日
就任年月日	令和6年8月25日	令和2年8月25日	令和6年8月24日	令和2年8月24日	令和6年8月25日	令和2年8月25日	令和0年8月24日

氏名		就任年月日	退任年月日
川邊七郎	昭和32年5月6日	昭和36年8月3日	昭和37年8月3日
滝島七郎	昭和36年8月3日	昭和37年5月14日	昭和38年5月14日
古屋忠良	昭和37年5月14日	昭和38年12月7日	昭和39年2月22日
川邊七郎	昭和38年12月7日	昭和39年3月5日	昭和40年12月20日
古屋忠良	昭和39年3月5日	昭和40年12月20日	昭和42年11月30日
小峰仙助	昭和40年12月20日	昭和42年12月5日	昭和46年11月30日
小峰浩成	昭和42年12月5日	昭和46年12月4日	昭和48年12月3日
村木弥之助	昭和46年12月4日	昭和48年12月3日	昭和54年11月30日
原島重朗	昭和48年12月3日	昭和54年12月4日	昭和55年9月17日
原島芳雄	昭和54年12月4日	昭和55年9月17日	昭和62年11月30日
島崎三郎	昭和55年9月17日	昭和62年12月3日	平成3年11月30日
森田武男	昭和62年12月3日	平成3年11月30日	平成7年11月30日
原島武夫	平成3年12月2日	平成7年11月30日	平成9年11月30日
酒井満平	平成7年12月1日	平成9年11月30日	平成11年11月30日
奥平春男	平成9年12月1日	平成11年11月30日	平成13年11月30日
師岡智	平成11年12月1日	平成15年11月30日	平成17年11月30日
澤本章	平成13年12月1日	平成15年11月30日	平成17年11月30日
小川幸男	平成15年12月1日	平成17年11月30日	平成19年11月30日
清水典義	平成17年11月30日	平成19年11月30日	平成21年11月30日
小澤春義	平成19年12月3日	平成21年11月30日	平成23年11月30日
澤本章	平成21年11月30日	平成23年11月30日	平成25年11月29日
鈴木賢一	平成23年2月18日	平成25年11月29日	平成27年11月30日
清水典男	平成23年12月1日	平成25年11月29日	平成27年11月30日
前田悦男	平成25年12月1日	平成27年11月30日	平成29年11月30日
須崎眞	平成27年12月1日	平成29年11月30日	令和元年11月30日
師岡伸公	平成29年11月30日	令和元年11月30日	令和3年11月29日
原島幸次	令和元年12月2日	令和3年11月29日	令和5年11月30日
高橋邦男	令和3年11月29日	令和5年11月30日	令和7年11月30日
小峰陽一	令和5年12月1日	令和7年11月30日	令和9年11月30日

氏名		称号贈呈年月日
木村 源兵衛	昭和43年11月3日	
河村 大助	昭和43年11月3日	



澤本幹男	小峰陽一	宮野亨	高橋邦男	原島幸次	酒井正利	須岡伸公	須崎眞	増田ひさ子	鈴木賢一	前田悦男	小澤春義	小林勤	小川幸次	大澤隆次	川久保一夫	石田光正	村木朝吉	澤本久男	竹島勝男	小林進	森田武男	大澤英夫	並木久	島崎三郎	氏名
令和5年12月1日	令和3年11月29日	令和3年12月2日	平成29年12月30日	平成28年5月20日	平成27年12月1日	平成25年11月29日	平成23年2月1日	平成23年12月18日	平成21年11月30日	平成19年12月3日	平成17年11月30日	平成15年12月1日	平成13年12月1日	平成11年12月1日	平成9年12月12日	平成7年12月12日	平成5年12月12日	平成3年12月2日	平成元年12月12日	昭和62年12月3日	昭和58年12月1日	昭和56年12月11日	昭和55年9月17日	昭和54年12月4日	就任年月日
現在	令和5年11月30日	令和3年11月29日	令和元年11月30日	平成29年11月30日	平成28年3月28日	平成27年11月30日	平成25年11月29日	平成23年11月30日	平成23年2月18日	平成21年11月30日	平成19年11月30日	平成17年11月30日	平成15年11月30日	平成13年11月30日	平成11年11月30日	平成9年11月30日	平成7年11月30日	平成5年11月30日	平成3年11月30日	昭和62年11月30日	昭和58年11月30日	昭和56年11月30日	昭和55年12月11日	昭和54年9月17日	退任年月日



床から便器まで、すべて手で磨きます

奥多摩町を日本一観光用
公衆トイレがきれいな町に

OPT(オピト)

奥多摩町ではトイレが町の印象を左右すると考え、2015年から観光トイレの新設や改修、洋式化を進めてきました。そうしたトイレを美しく保つため日々奮闘しているのが、OPTの面々です。「最初に使ったトイレが、明るくきれいで臭いもなく光り輝いていたら、それだけで『ようこそ奥多摩へ』という気持ち伝わるじゃないですか」と笑顔で話す代表の大井朋幸さん。OPTは「奥多摩ピカピカトイレ」の略で、床も便器も手作業で徹底的に磨き上げるのが

ポリシー。目指しているのは、笑っちゃうくらいきれいなトイレだと言います。ポップなユニフォームに身を包み、カラフルな髪をピシッと決めて、「日本一観光用公衆トイレがきれいな町」であり続けるために、カッコよくトイレを掃除しています。

OPT代表の大井朋幸さん



1000発の花火が
夜空を色鮮やかに染める

奥多摩
納涼花火

大迫力の奥多摩納涼花火大会。奥多摩駅目の前の愛宕山山頂から打ち上げる花火は、山々に響き渡る豪快な音が魅力です。

多摩川の恵みを満喫！
溪流釣り

奥多摩町の中心を流れる多摩川の支流は日原川、大丹波川など自然の宝庫で溪流釣りには最高の環境です。町内に点在する個性的な各管理釣場では、溪流釣りを快適に楽しむための施設が整備されています。

大丹波川国際虹ます釣場



日原溪流釣場



奥多摩町に来るならココ！



観光スポット



古生層より湧き出る源泉100%
もえぎの湯

日本列島最古の地層といわれる古生層から悠久の時を経て湧き出る源泉100%のもえぎの湯。多摩川の流れを眼下に眺め、風の音や鳥のさえずりを聴きながらの露天風呂は格別です。

ダム湖百選に選定されている奥多摩町の顔

奥多摩湖

秩父多摩甲斐国立公園の中央に位置し、四季折々の景観が素晴らしい奥多摩湖。水道専用ダムとして国内最大規模の貯水量を誇ります。



浮橋



四季折々で違った表情をみせます

東京都で一番高い場所

雲取山

日本百名山のひとつである雲取山は、標高2,017mの東京都の最高峰。山頂は展望に恵まれており、大菩薩嶺、秩父山塊、南アルプスなどに加え、富士山の雄大な姿を眺めることができます。



富士山をみながらの登山が楽しめます

NEW
OPEN!

五十人平野営場オープン！

2019年3月に閉鎖した雲取山奥多摩小屋跡地に、東京都環境局により管理棟や休憩場、トイレが建設され、2025年4月に「五十人平野営場」がオープンします。



建設中の管理棟とトイレ





奥多摩マップ

都心から気軽に行ける
大自然の宝庫！



奥多摩町町民憲章

- 一、私たちは、水と緑を大切にし人と自然の調和した、潤いのあるまちをつくります。
- 一、私たちは、歴史や伝統をだいにし教養をつちかい、情操あふれる、文化の薫り高いまちをつくります。
- 一、私たちは、お互いに敬愛し、学びあい温かい心のふれあう、生きがいのあるまちをつくります。
- 一、私たちは、心と体をきたえ充実した毎日をおくれる、希望にみちたまちをつくります。
- 一、私たちは、創意とくふうをこらし働くことに誇りのもてる、活力のあるまちをつくります。

町章



「奥」の字を図案化したもので、上部の三角は山を示します。また、中心の円は奥多摩湖をつつみ町民の円融和を、下部は町民すべてが協力して町を築き上げる意をあらわします。

町の花 ミツバツツジ



町の鳥 ヤマドリ

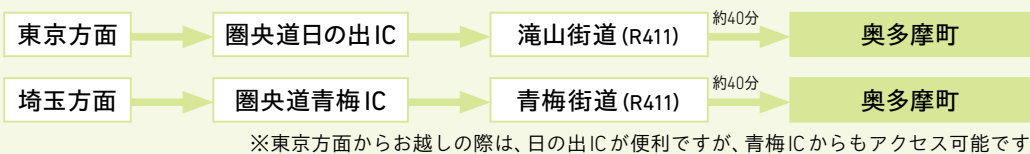


町の木 スギ

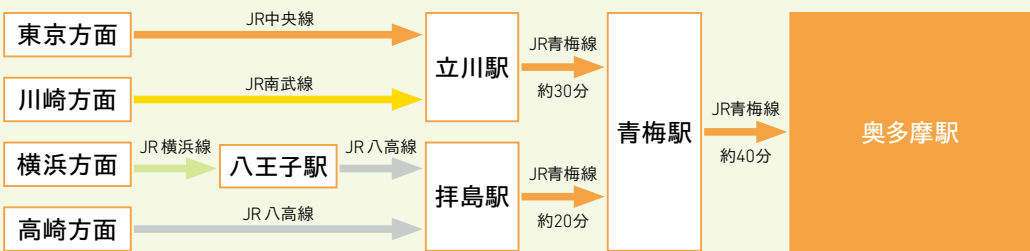


奥多摩アクセスガイド

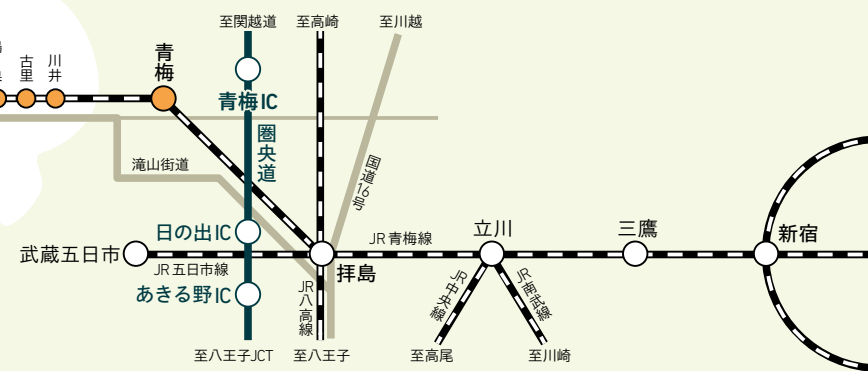
車でのアクセス



電車でのアクセス

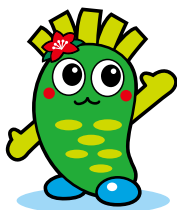


奥多摩町





奥多摩町勢要覧



〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川215-6

Tel 0428-83-2111 (代表)

URL <https://www.town.okutama.tokyo.jp/>

発行 奥多摩町役場 令和7年4月発行

編集 奥多摩町総務課

制作 株式会社サンニチ印刷

